

7 アスベスト含有吹付け材の除去工事

Table with 5 columns: 測定時期, 重要度, 測定場所, 測定点数, 備考. Rows include 処理作業前, 処理作業中, 処理作業後.

(注) 1. 重要度の記号は、◎は必須、○は条件により必須、△は望ましいという意味である。 2. 施工区画とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置き場を含む範囲で、セキュリティゾーン、負圧・除じん装置の排出口が施工区画周辺に設置されている場合の測定点は2点となる。

2. 施工計画

- (1) 施工業者 施工業者は、工事に相応した技術を有することを証明する資料を、監督職員に提出する。 (2) 作業管理者 石綿作業主任者の資格を有する作業管理者を選任し管理させる。

3. 安全衛生管理

- (1) 休憩室の設置 (i) 作業場以外の場所に設置する。 (ii) 十分湿らせたマット、衣服用のブラシ、真空掃除機等を備える。 (2) 洗浄設備 (i) 洗髪/洗身、うがいの設備を設ける。

4. 除去処理工事

- (a) 除去方法は、特記による。特記がなければ以下による。 (1) アスベスト含有吹付け材を粉じん飛散抑制剤等により十分湿潤化し、その後除去する。 (2) 除去するにあたっては、飛散抑制剤等の効果を確認し、ケレン棒等によりアスベスト含有吹付け材を掻き落とす。

5. 汚染物処分工事

- (i) 除去したアスベスト含有吹付け材の処理方法は、以下による。 ① 密封処理の場合 ア. 除去したアスベスト含有吹付け材は、適宜密封する。

6. 検査及び後片付け

- (1) 除去作業が終了後、高性能真空掃除機で床などの清掃を行う。 (2) 監督職員立会いのうえ、除去が十分に行われたかを、目視により検査を行う。

7. 施工記録

- (1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。 (2) 施工記録報告書は、下記事項により作成する。

8. アスベスト含有保温材等の除去工事

- 1. 施工調査等 施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。 (1) 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。

2. 施工計画書

- (1) 施工計画書 着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。

3. 安全衛生管理

- (1) 建物内部で除去作業を行う場合は、作業場所を他の場所を隔離する。 (2) 建物外部で除去作業を行う場合は、当該部分をプラスチックシート等で囲い、当該部分をプラスチックシート等で囲い、周辺環境へのアスベスト飛散を防止する。

4. 除去処理工事

アスベスト含有保温材等(煙突用断熱材は除く)の除去は可能な限り粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらで行うこと。手ばらし以外の除去(グローブパック方式による除去は除く)の場合は、「改修共仕」9.1.3および「改修指針」9.1.3cによる。

5. 汚染物処分工事

- (1) 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。

6. 検査及び後片付け

7. 6に準じて行う。

1. 施工調査

施工調査は、特記による。特記がなければ、次による。 処理工事に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。 調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出する。

2. 施工計画書

- (1) 施工計画書 着工に先立ち、処理工事に伴うアスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだ施工計画書を施工調査等の結果に基づき作成し、監督職員の承認を受ける。

3. 安全衛生管理

- (1) 建物内部で除去作業を行う場合は閉閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等と開となっている部分を、養生シート等で遮くものとする。

4. 除去処理工事

- (1) アスベスト含有成形板の除去 (i) 除去は、アスベストを含まない内装材及び外部部材等の除去にさきが行う。

5. 検査及び後片付け

- (1) 除去作業が終了後、アスベスト含有成形板の破片、破断粉および作業衣等に付着した粉じんが残存しないように、真空掃除機等により、清掃および片付けを十分に行う。

6. 施工記録

- (1) 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。 (2) 施工記録報告書は、7.7により作成する。

仕上 復旧 特記 仕様

1. 危険防止

- 1) 仮囲い等 ・設けない ※設ける 設置方法 ・成形鋼板(H= m) ・波形カラー鉄板(H= m) ・シート張り ・ロープ張り

2. 構 台

養生構台 ・設置する(図示による) ・設置しない 乗入れ構台 ・設置する(幅員 m、長さ m) ・設置しない

3. 工事表示等

監督員の指示による。 ※施工区分表による ※施工範囲は下記による ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の封止及びそれらの補修

4. 設備工事との取合い

- (1) 除去したアスベスト含有保温材の処理方法は、「改修共仕」9.1.3(b)(2)および「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。

5. 総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督職員の承認を仰ぐ。総合図は施工図作成に先立ち、その地の地味調査性工事業者の情報をすべて盛り込んだ図面とし、それぞれの担当の細部調整を行う。

1. 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 横仕(14.4.2)(表14.4.1) 屋内 ※19形 ・2.5形 ・() 屋外 ・19形 ※2.5形 () 横仕(14.4.3)

2. せつこうボード

Table with 5 columns: 材種, 種別, 張り方, 厚さ, 備考. Rows include せつこうボード, 化粧せつこうボード.

3. 吸音材

Table with 4 columns: 材種, 品質・規格, 厚さ. Rows include ロックウール吸音材, グラスウール吸音材.

4. 吹付け吹付け

Table with 3 columns: 種類, 色採, 厚さ. Rows include 一般用.

5. 木質繊維吹付け

Table with 3 columns: 種類, 色採, 厚さ. Rows include 一般用.

6. 塗装材料

屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づき防火材料の指定又は認定を受けたものとする。(18.1.3)

7. 塗装業者

・(一社)日本塗装工業会の会員 ※監督員の承諾する塗装業者

アスベスト除去写真

- 1 除去着工前の清掃 2 ビニール養生(床二重が分る撮影・養生・機器養生等) 3 クリーンルームの撮影(設置状況、完了時)

施行区分表 (○印を塗りつぶしたものを適用する)

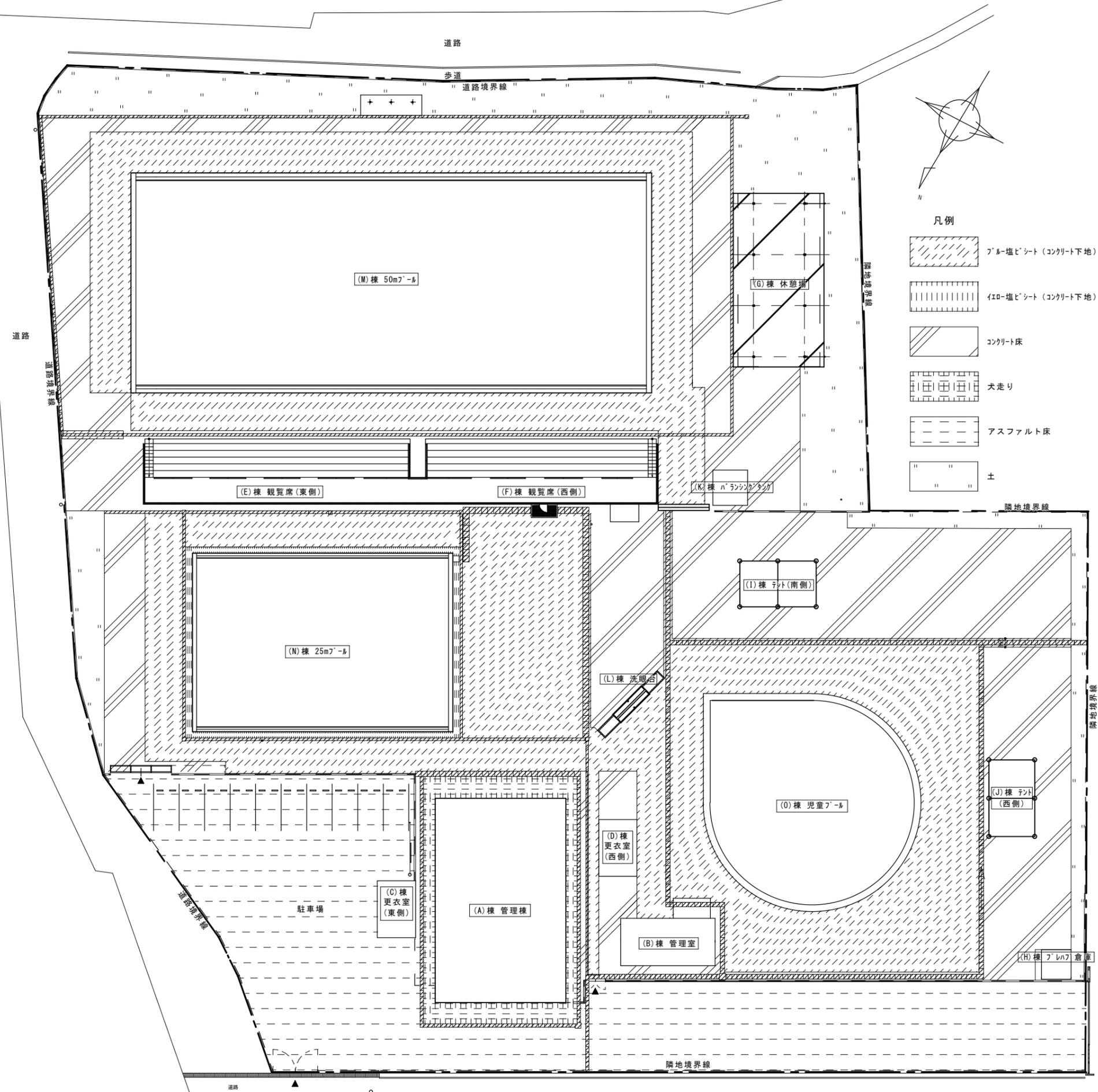
Table with 10 columns: 工事内容, 建築, 解体, 電気, 衛生, 空調, ガス, 別建, 備考. Rows include 電気引き込み撤去工事, 水道, ガス, 下水接続撤去工事, etc.

設計者 一級建築士事務所 馬場建築設計事務所 承認印

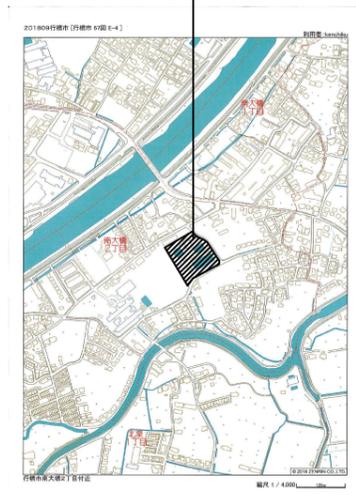
事務所所在 福岡県行橋市西宮町1丁目4-5 101 1級建築士事務所登録 第1-60020号 1級建築士登録 第333766号 馬場 龍彦

工事名称 行橋市民プール解体工事 図面名称 解体工事等特記仕様書(2)

尺度 日付 令和2年10月 図面番号 A-02



工事場所
：行橋市南大橋二丁目8番1号



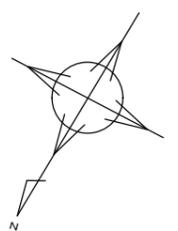
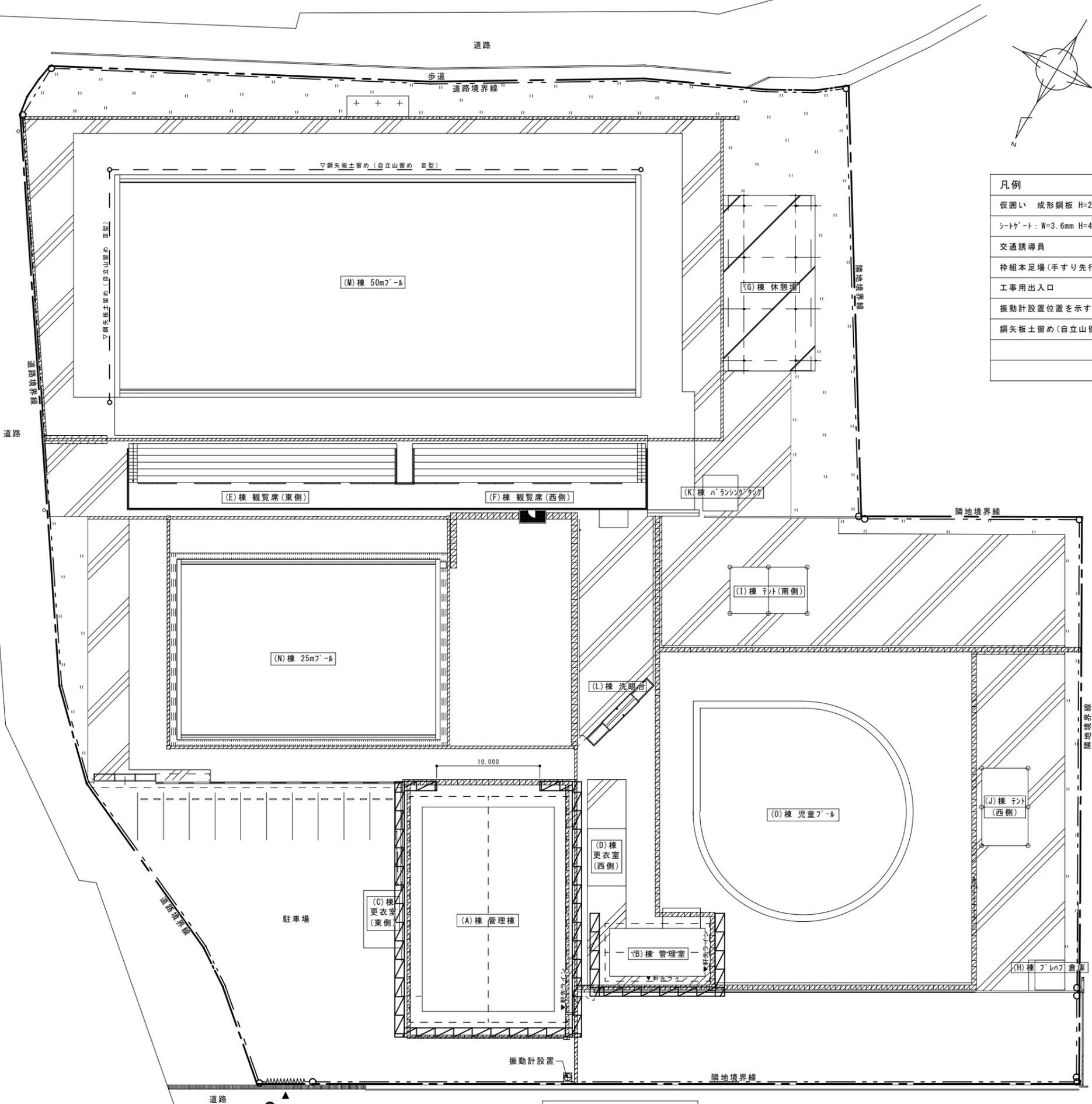
附近見取図

工事概要

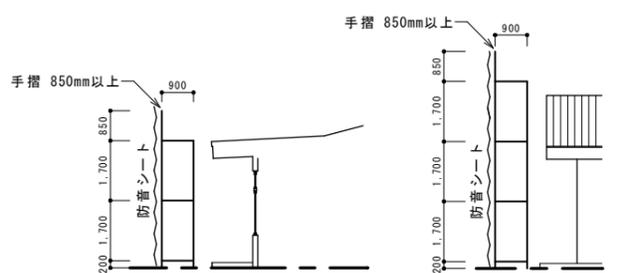
棟名	構造	延面積	解体撤去
(A)棟 管理棟	鉄骨造平屋建て	延面積 253.44㎡	解体撤去
(B)棟 管理室	CB7'ロック造平屋建て	延面積 47.96㎡	解体撤去
(C)棟 更衣室(東側)	CB7'ロック造平屋建て	延面積 19.51㎡	解体撤去
(D)棟 更衣室(西側)	CB7'ロック造平屋建て	延面積 19.51㎡	解体撤去
(E・F)棟 観覧席	RC造平屋建て	延面積 318.14㎡	解体撤去
(G)棟 休憩場	鉄骨造平屋建て	延面積 75.00㎡	解体撤去
(H)棟 プレハブ倉庫	鉄骨造平屋建て	延面積 7.84㎡	解体撤去
(I)棟 テント(南側)	鉄骨造平屋建て	延面積 25.92㎡	解体撤去
(J)棟 テント(西側)	鉄骨造平屋建て	延面積 32.40㎡	解体撤去
(K)棟 ハランシクタンク	鉄筋コンクリート造	延面積 11.83㎡	解体撤去
(L)棟 洗眼台	鉄筋コンクリート造	延面積 4.16㎡	解体撤去
(M)棟 50mプール	鉄筋コンクリート造	延面積 1010.00㎡	解体撤去
(N)棟 25mプール	鉄筋コンクリート造	延面積 410.32㎡	解体撤去
(O)棟 児童プール	鉄筋コンクリート造	延面積 344.06㎡	解体撤去

- 構内コンクリート舗装・アスファルト舗装の撤去
- 敷地境界工作物の撤去・保全
- 樹木抜根・伐採撤去 及び 除草
- 残存備品の撤去・処分
- 敷地内残留水(プール・便槽・ハランシクタンク・ホッパ室等)の適正処分
- 敷地の埋戻し・整地
- プール層内の汚泥等の抜き取り(別途委託)

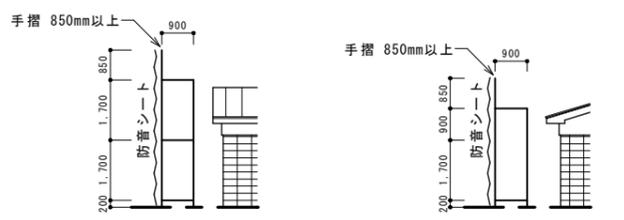
配置図 S=1/200



凡例		特記事項
仮囲い 成形鋼板 H=2.0m	○- - -○	<ul style="list-style-type: none"> 仮設物、仮囲い等の設置場所及び交通誘導員配置については監督員と協議の上、決定すること。 工事に使用する電力、水道等は施工会社で調達すること。 工事関係者、及び工事関係車両は、指定ゲートを常用出入り口とすること。 足場の養生は、全面防音シート養生とする。 周辺環境に配慮し、騒音・振動・塵埃等に留意して施工を行うこと。 現場の進入口は鍵付きとし、工事関係者以外の進入禁止措置を行うこと。 枠組足場の外部側、躯体側、妻側に二段手摺(850mm以上)及び巾木(150mm以上)の設置を行うこと。 工事中は、必ず交通誘導員を配置し、安全対策に努めること。
シートゲート: W=3.6mm H=4.5mm	~~~~~	
交通誘導員	●	
枠組本足場(手すり先行方式)W=900	▨	
工事用出入口	▼	
振動計設置位置を示す	⊠	
鋼矢板土留め(自立山留めⅢ型)	○-○	

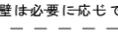


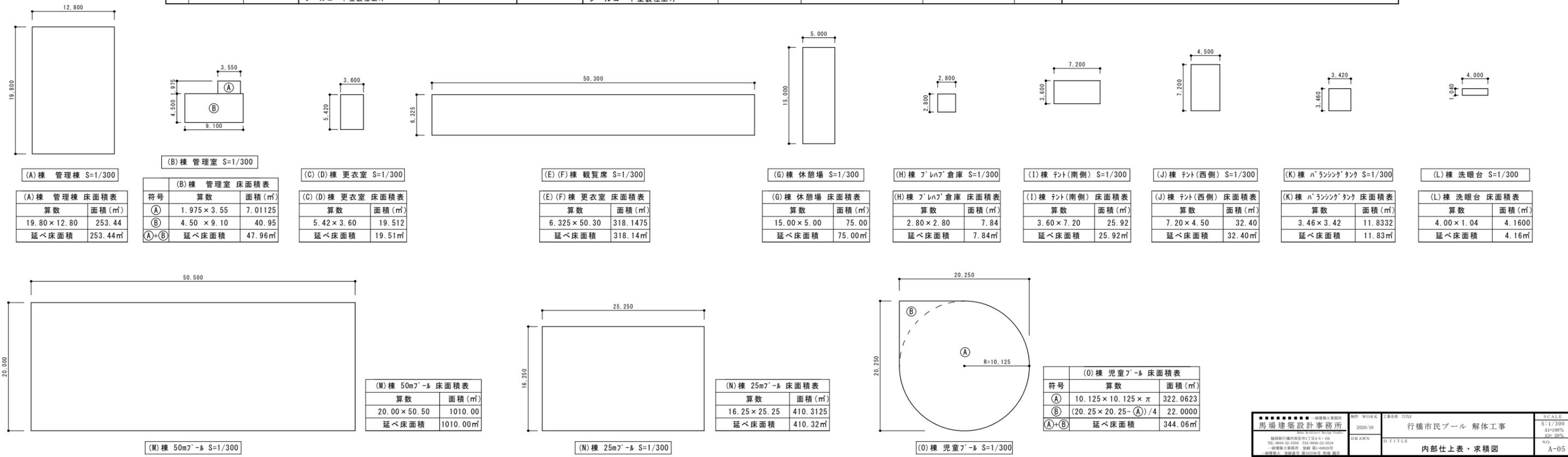
管理棟 足場 断面図(参考図) S=1/100

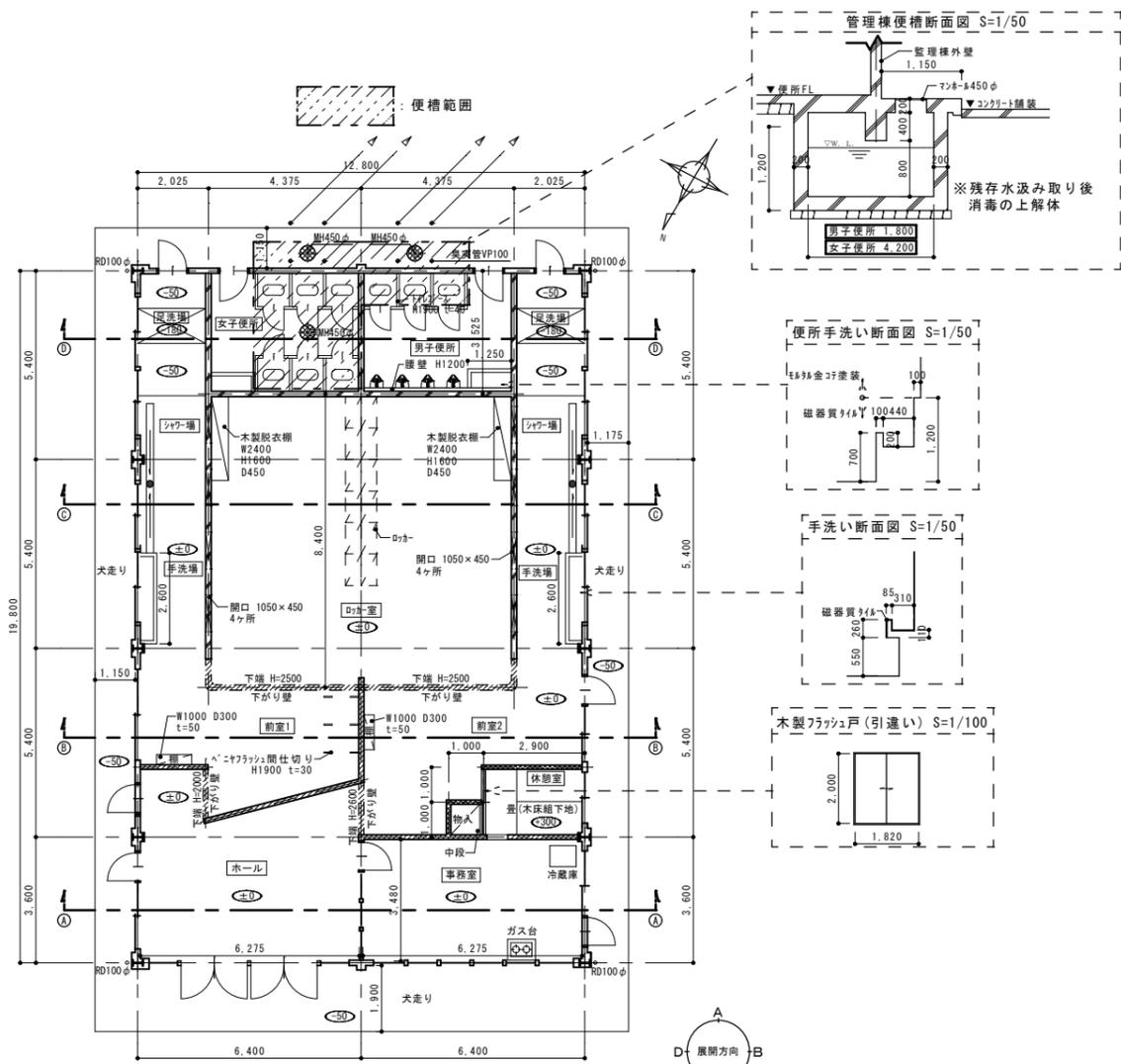


管理室 足場 断面図(参考図) S=1/100

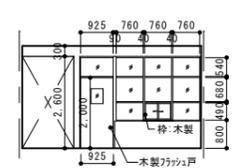
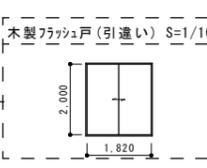
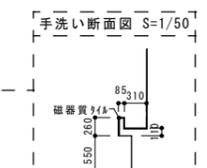
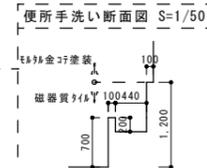
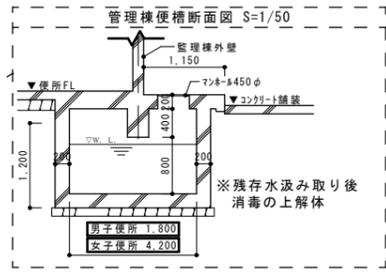
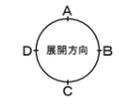
仮設計画図(参考図) S=1/200

記号	建物名称	部屋名称	内 部 仕 上						天井高	備 考		
			床仕上	床下地	巾 木	壁仕上	壁下地	天井仕上				
A	管理棟	事務室	塩ビシート ※アスベスト含有	モルタル下地	モルタル塗上げ	プリント合板(木目調) 石膏板 OP塗リ H=800 ※アスベスト含有	壁下地	石膏板 OP塗リ H=800 ※アスベスト含有	木野縁	2.900	※  は、屋内アスベスト含有成形板を示す。 ※室内天井アスベスト含有成形板の撤去は、材料を薬液等で浸潤化し、手ばらしにより取り外す。床はシート等で養生する。 壁は必要に応じて、シート一目張り等を施し飛散防止に留意する。	
		休憩室	畳	木床組下地	無し	合板下地クロス貼り	壁下地	石膏板 OP塗リ H=800 ※アスベスト含有	木野縁	2.600		
		物入	合板 t=6				合板 t=6					2.900
		ホール	モルタル金銀押さえ塗装			モルタル塗上げ	仕上塗材	ラスモルタル下地		木野縁		2.900
		ロッカー室	モルタル金銀押さえ塗装			無し	仕上塗材	ラスモルタル下地		木野縁		3.000~3.850
		手洗場・シャワー場(東側)	モルタル金銀押さえ			モルタル塗上げ	モルタル金銀押さえ塗装			木野縁		2.900
		手洗場・シャワー場(西側)	モルタル金銀押さえ			モルタル塗上げ	モルタル金銀押さえ塗装			木野縁		2.900
		女子便所	50角磁器タイル	モルタル下地	無し	モルタル金銀押さえ塗装 100角半磁器タイル H=1200				木野縁		2.850
		男子便所	50角磁器タイル	モルタル下地	無し	モルタル金銀押さえ塗装 100角半磁器タイル H=1200				木野縁		2.850
		前室1	モルタル金銀押さえ塗装			モルタル塗上げ	仕上塗材	ラスモルタル下地		木野縁		2.900
前室2	モルタル金銀押さえ塗装			モルタル塗上げ	仕上塗材	ラスモルタル下地		木野縁	2.900			
B	管理室	管理室	モルタル金銀仕上げ 一部 707合板貼り t=12	木床組下地	無し	モルタル金銀押さえ吹付け塗装 モルタル金銀押さえ塗装 H=1000 塩ビシート ※アスベスト含有				2.400		
		喫煙コーナー	コンクリート打放し		無し	ポリ力製タン(下地剥き出し) 1面管理棟の外壁CRリシン吹付け		ベニヤ合板 t=4		2.000~2.200		
C	更衣室(東側)	更衣室	モルタル金銀仕上げ		無し	モルタル金銀押さえ		コンクリート打放しOP塗り		1.900~2.000		
D	更衣室(西側)	更衣室	モルタル金銀仕上げ		無し	モルタル金銀押さえ		コンクリート打放しOP塗り		1.900~2.000		
E	観覧席(東側)	観覧席	モルタル仕上げ		無し							
		器具庫(1)	コンクリート打放し		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		3.100		
		休憩場	モルタル仕上げ		無し	コンクリート打放し吹付け塗装 コンクリートブロック吹付け塗装		コンクリートブロック吹付け塗装		2.800		
		倉庫	コンクリート打放し		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		3.100		
F	観覧席(西側)	観覧席	モルタル仕上げ		無し							
		男子便所	モルタル仕上げ		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		2.800		
		女子便所	モルタル仕上げ		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		2.800		
		器具庫(2)	コンクリート打放し		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		3.100		
		ろ過機室 ポンプ室	コンクリート打放し		無し	コンクリート打放し コンクリートブロック		コンクリート打放し		3.200 3.700		
		減菌器室	コンクリート打放し		無し	コンクリートブロック		コンクリート打放し				
G	休憩場	休憩場	モルタル仕上げ		無し			屋根折板のまま		2.775~2.900		
H	ﾌﾞﾚｯﾄﾞ倉庫	倉庫	モルタル仕上げ		無し	ベニヤ板張り		ベニヤ板張り		2.050~2.740		
K	バランシクタンク	バランシクタンク	コンクリート防水モルタル仕上げ		無し	コンクリート防水モルタル仕上げ		コンクリート打放し		4.100		
M	50mプール	50mプール	コンクリート防水モルタル仕上げ ライン 白タイル仕上げ		無し	コンクリート防水モルタル仕上げ オーバーフロー部樹脂カバラー仕上げ						
N	25mプール	25mプール	コンクリート防水モルタル仕上げ プールコート塗装仕上げ		無し	コンクリート防水モルタル仕上げ プールコート塗装仕上げ						
O	児童プール	児童プール	コンクリート防水モルタル仕上げ プールコート塗装仕上げ		無し	コンクリート防水モルタル仕上げ プールコート塗装仕上げ						



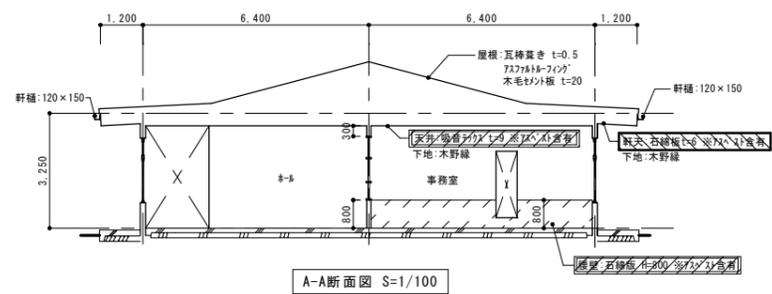


(A) 棟管理棟平面図 S=1/100

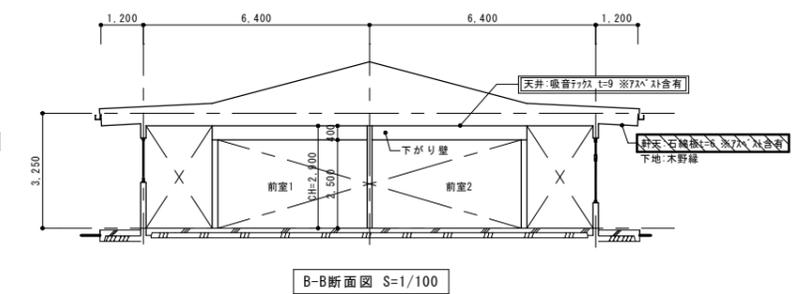


木製展開図 (B) S=1/100

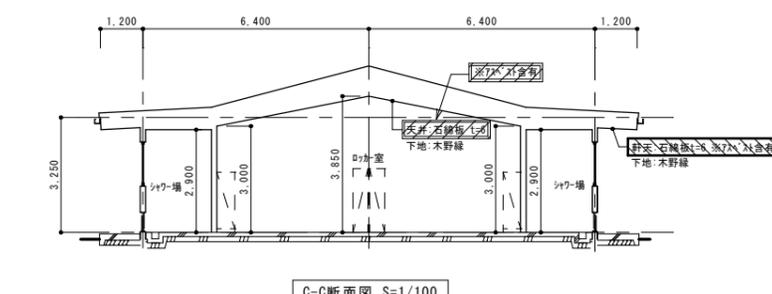
内壁下地凡例	
	コンクリート壁 t=120
	木軸組下地 t=90の上木s'り t=9 両面貼り
	木軸組下地 t=90



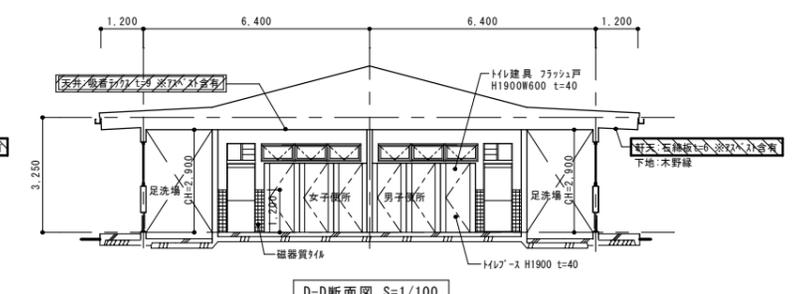
A-A断面図 S=1/100



B-B断面図 S=1/100



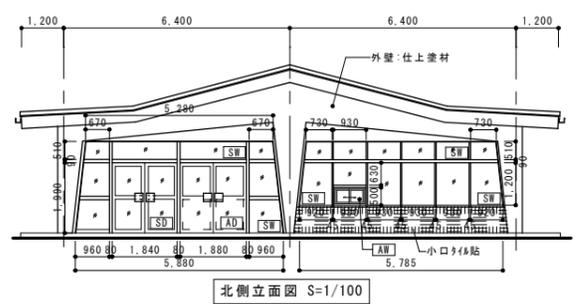
C-C断面図 S=1/100



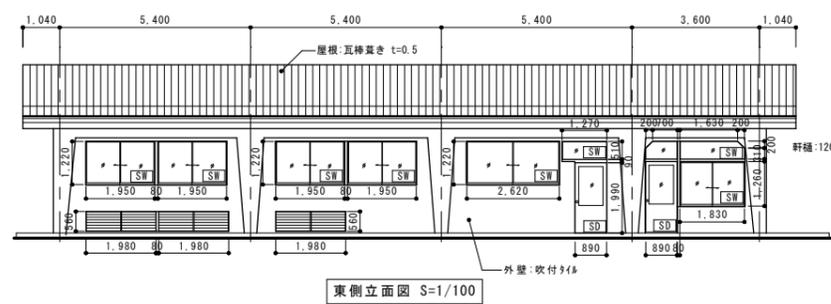
D-D断面図 S=1/100

※ は、屋内アスベスト含有成形板を示す。
 ※室内天井アスベスト含有成形板の撤去は、
 材料を薬液等で浸潤化し、手ばらしにより取り外す。
 床はシート等で養生する。
 壁は必要に応じて、シート・目張り等を施し飛散防止に留意する。

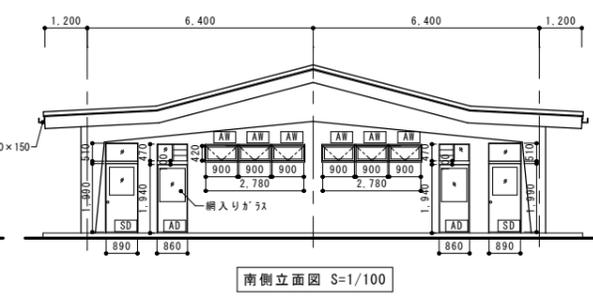
※ は屋外アスベスト含有成形板を示す。
 屋外アスベスト含有成形板の撤去は、
 材料を薬液等で浸潤化し、手ばらしにより取り外す。
 必要に応じて床はシート等で養生する。



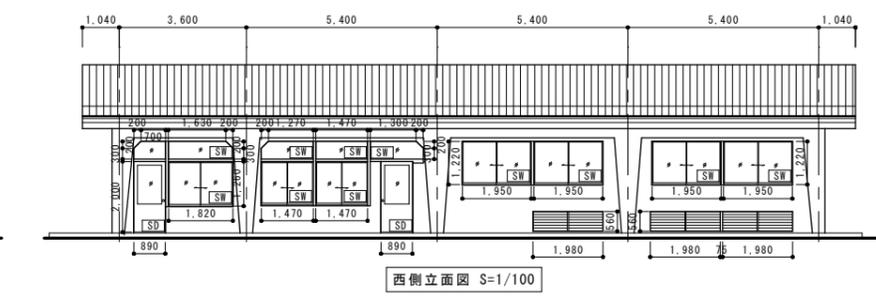
北側立面図 S=1/100



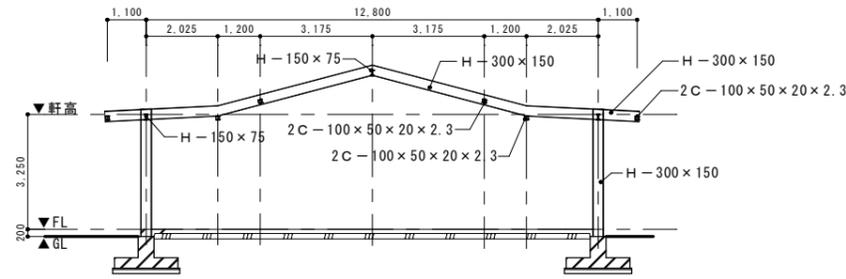
東側立面図 S=1/100



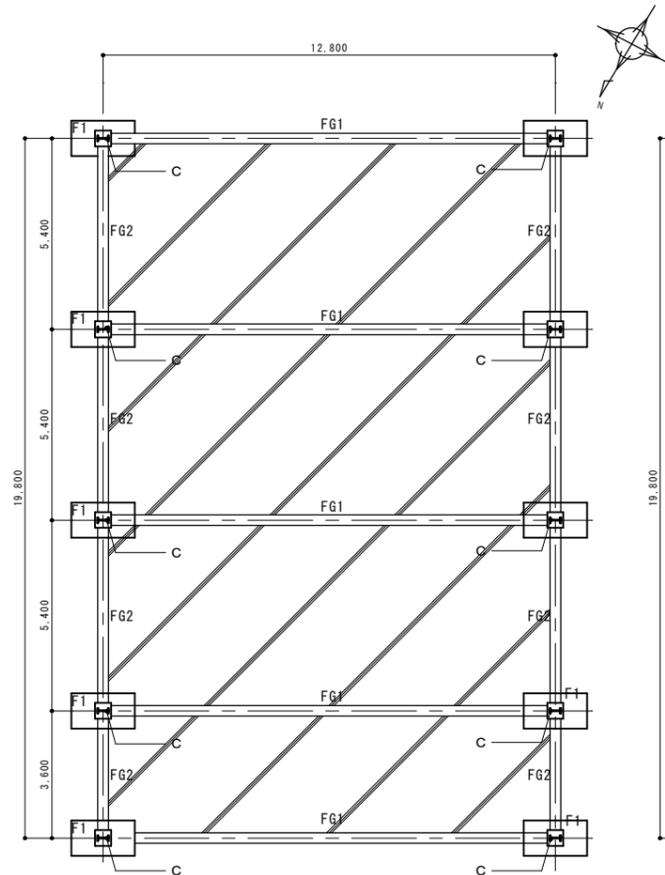
南側立面図 S=1/100



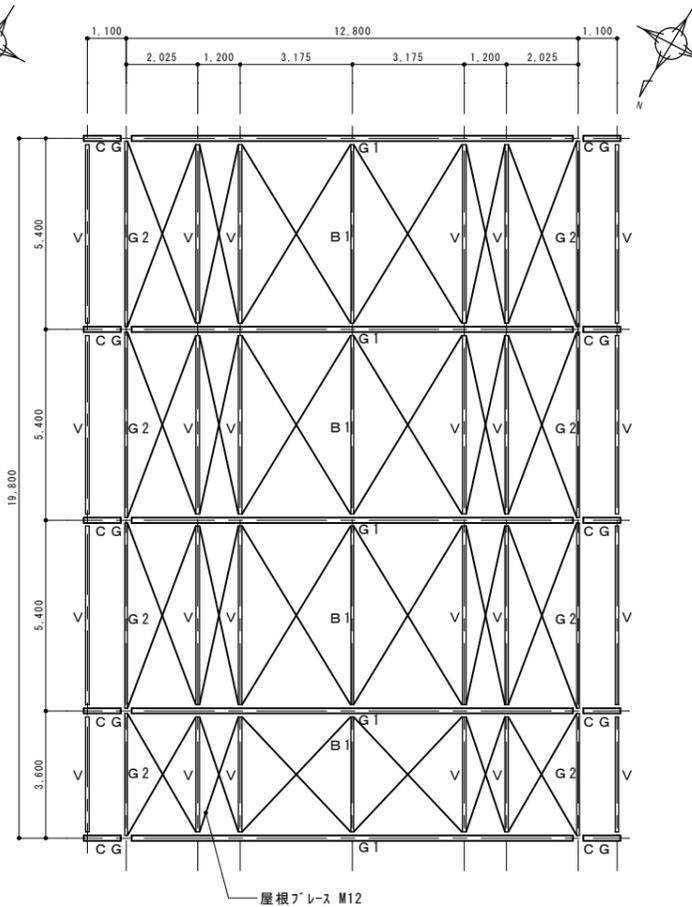
西側立面図 S=1/100



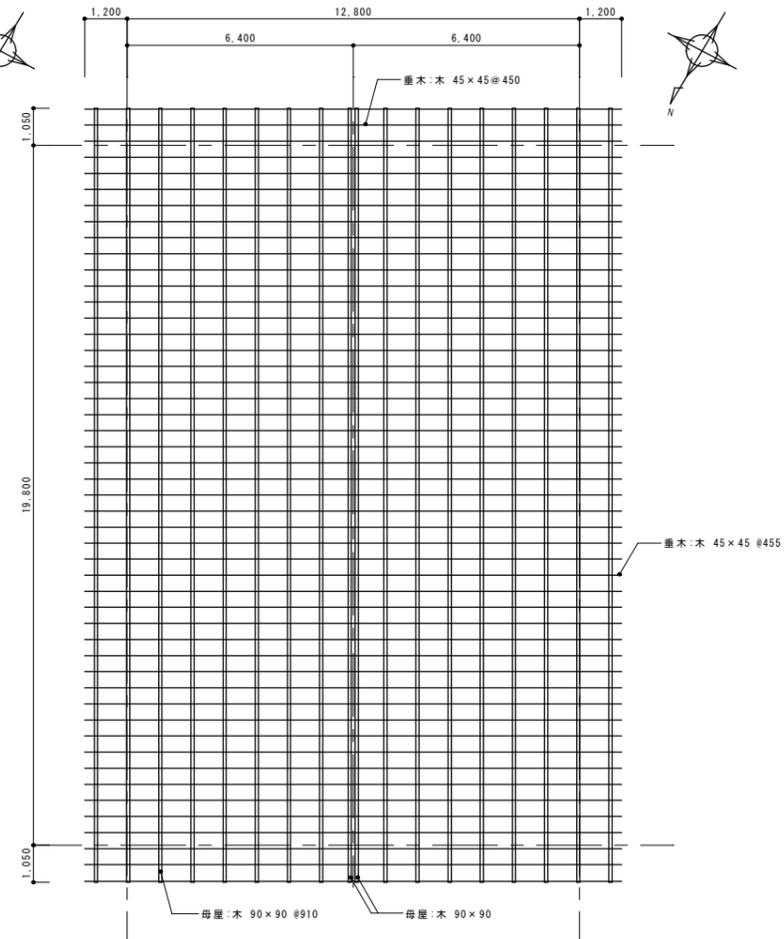
(A) 棟 管理棟軸組図 S=1/100



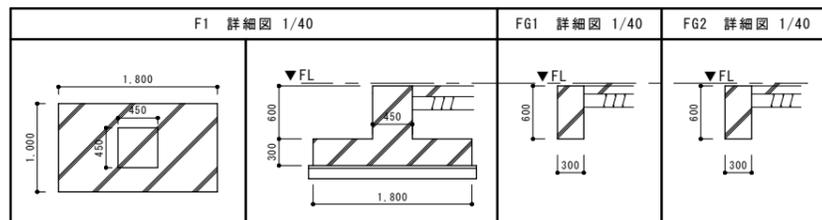
(A) 棟 管理棟柱・基礎伏図 S=1/100



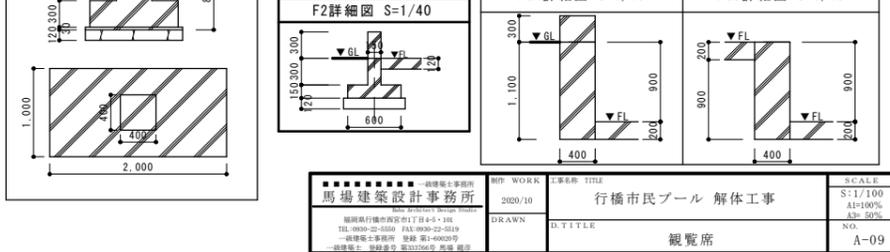
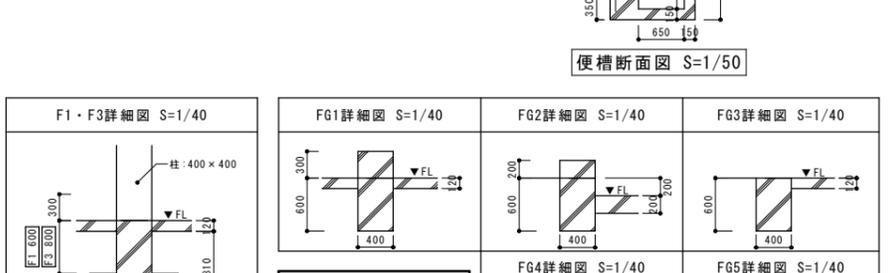
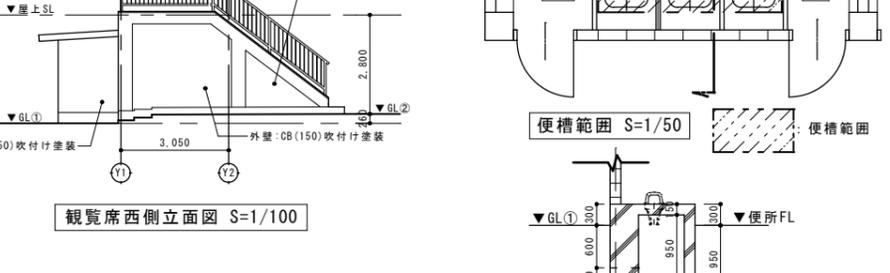
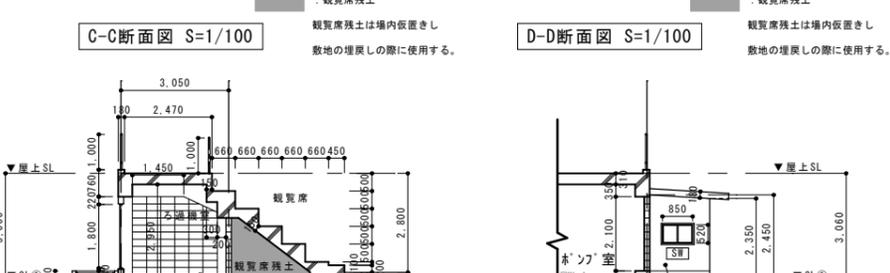
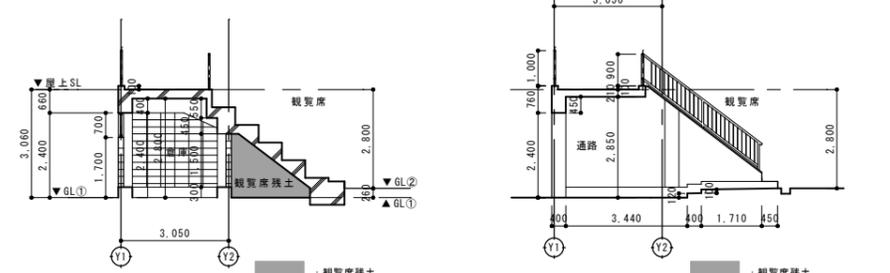
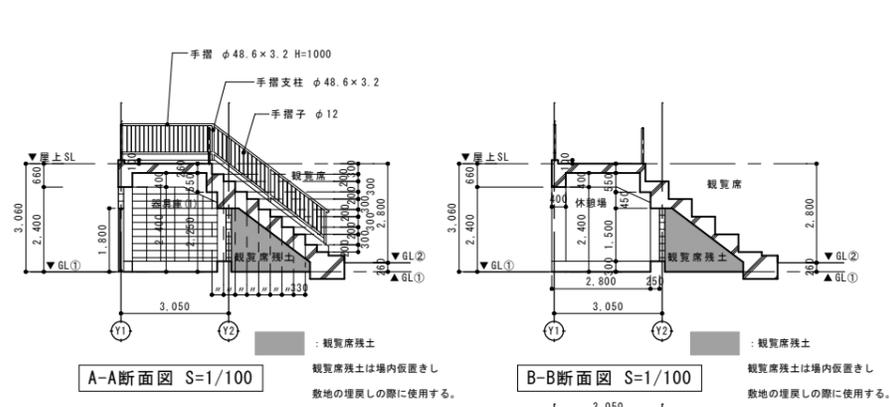
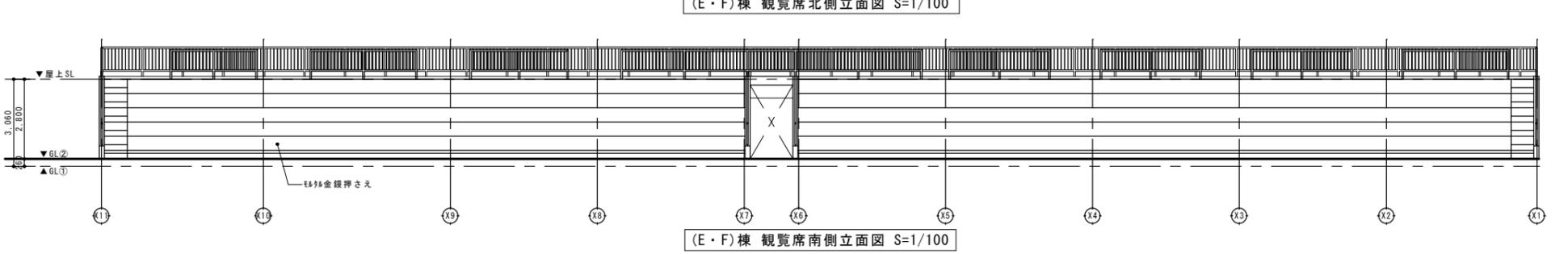
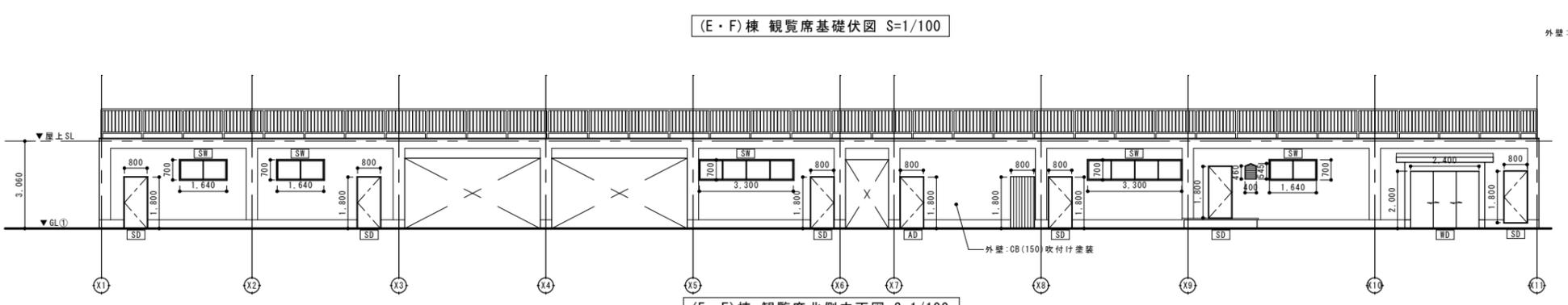
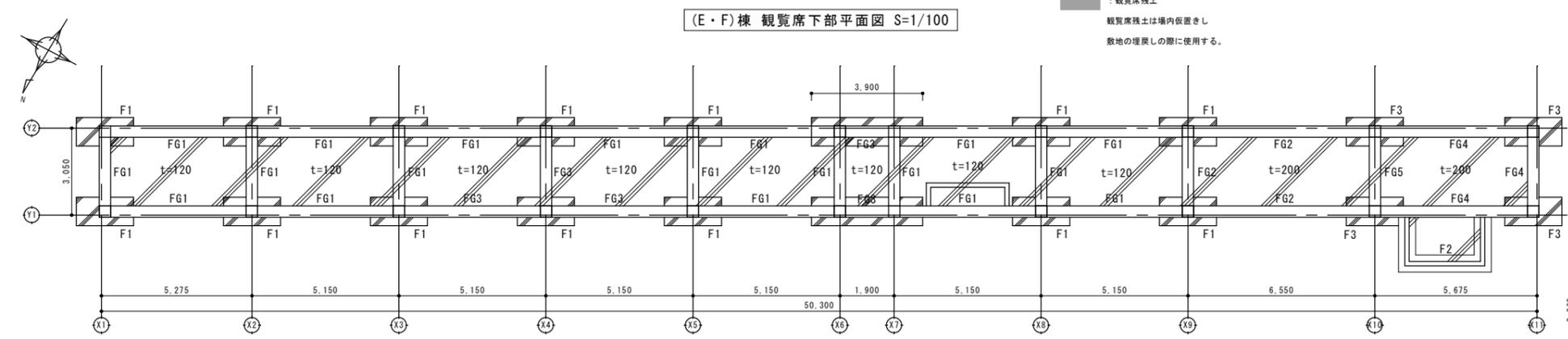
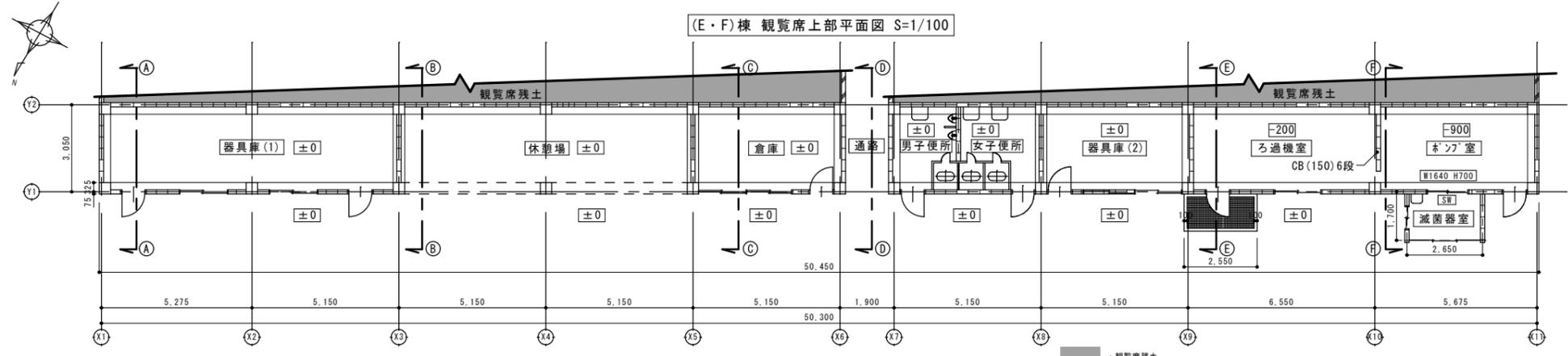
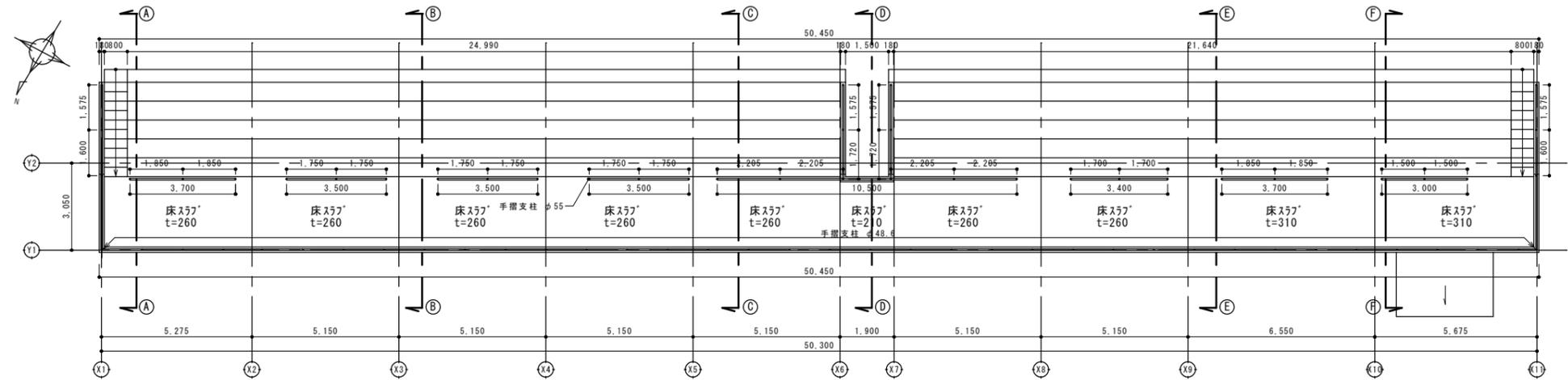
(A) 棟 管理棟小屋伏図 S=1/100



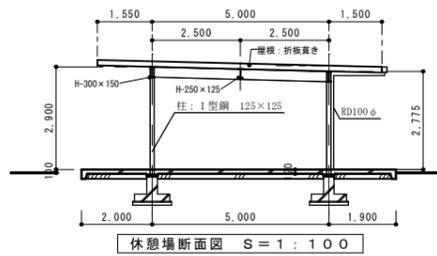
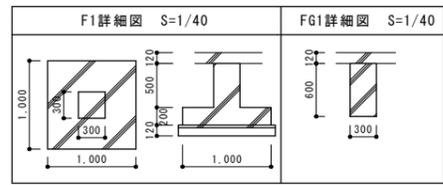
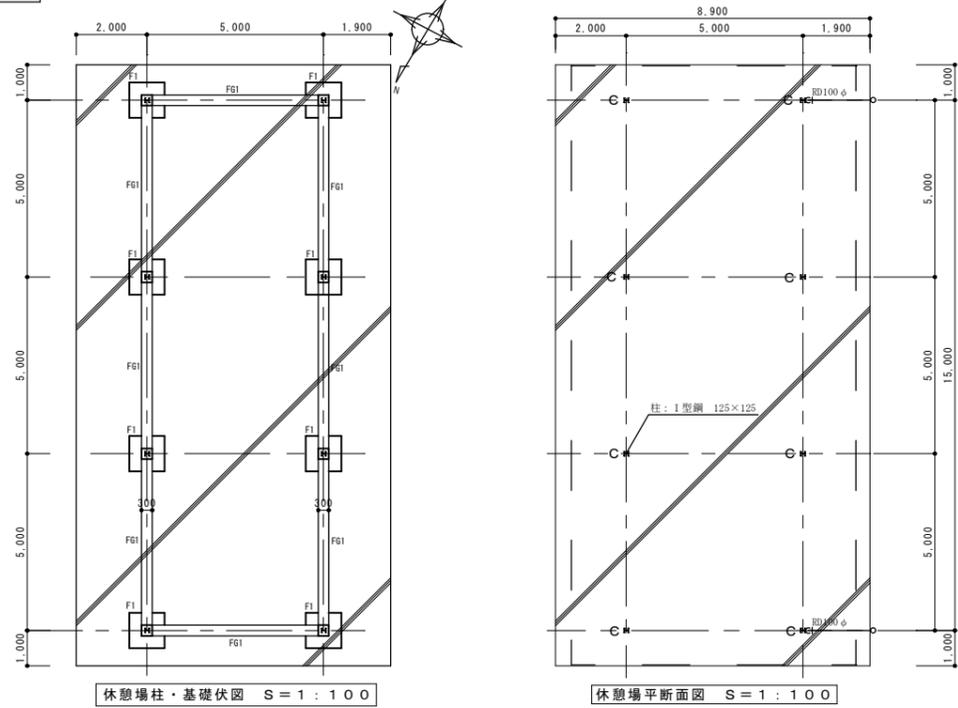
(A) 棟 管理棟母屋伏図 S=1/100



鉄骨部材リスト	
柱	C H-300x150
大梁	G1 H-300x150
大梁	G2 H-150x75
大梁	C G H-300x150
小梁	B1 H-150x75
小梁	V 2C-100x50x20x2.3



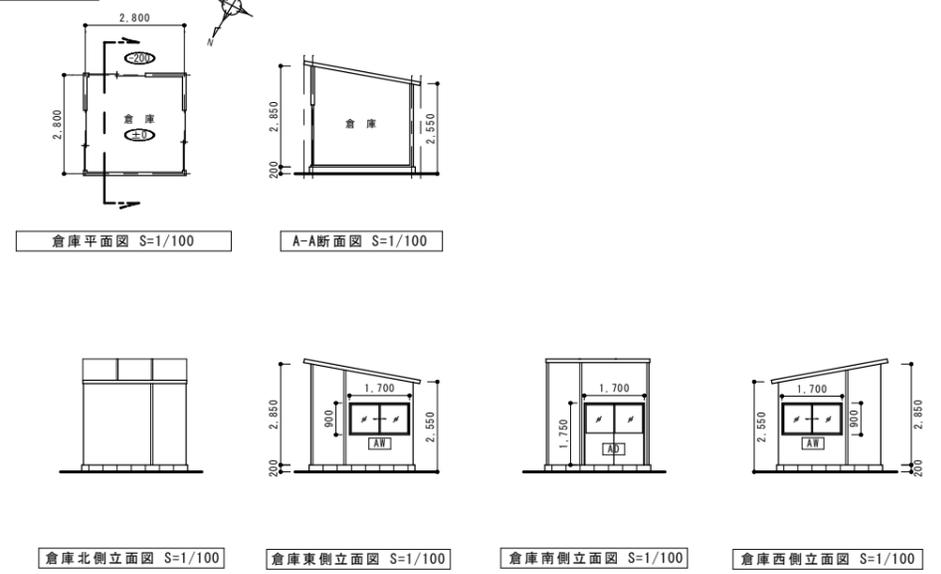
(G)棟 休憩場



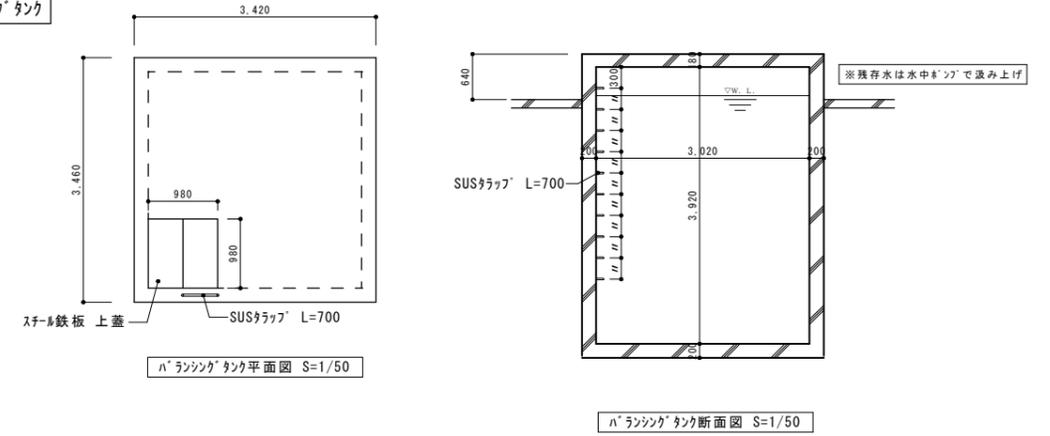
鉄骨部材リスト

柱	C	I-125×125
大梁	G1	H-300×150
大梁	G2	H-300×150
小梁	B1	H-250×125

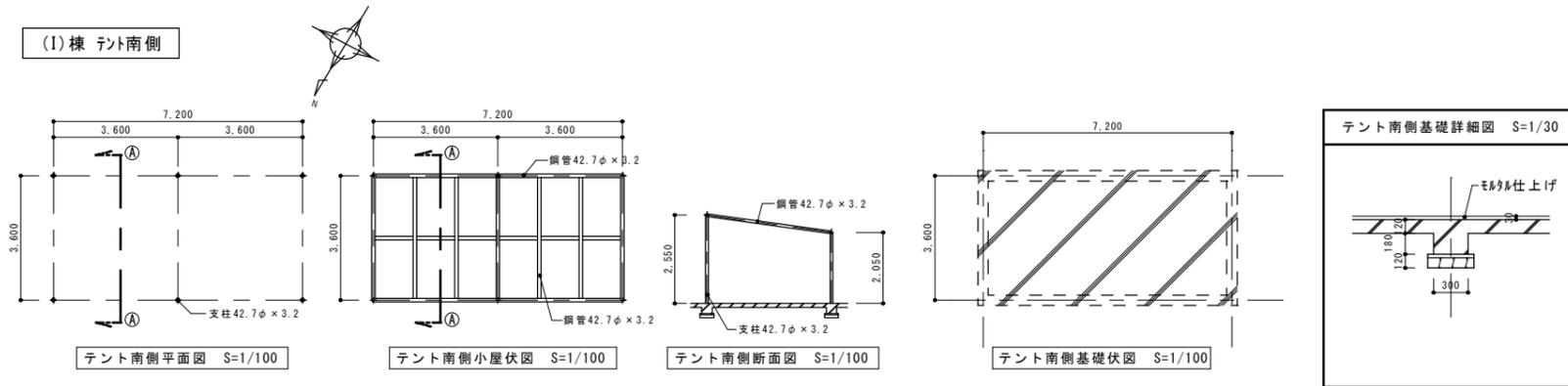
(H)棟 フレハブ倉庫



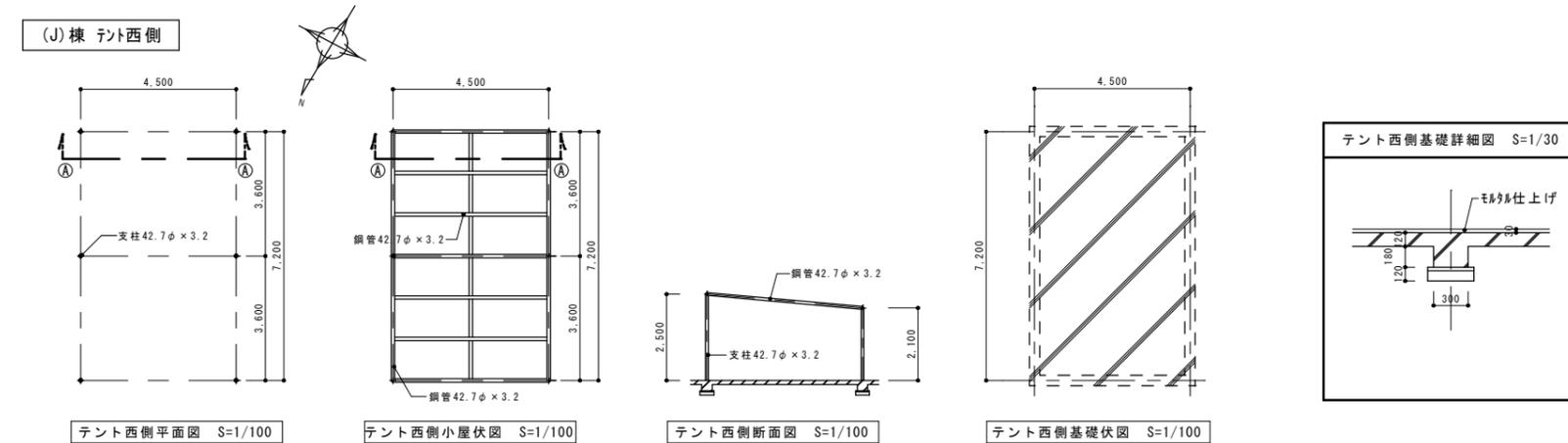
(K)棟 ハランジクタンク



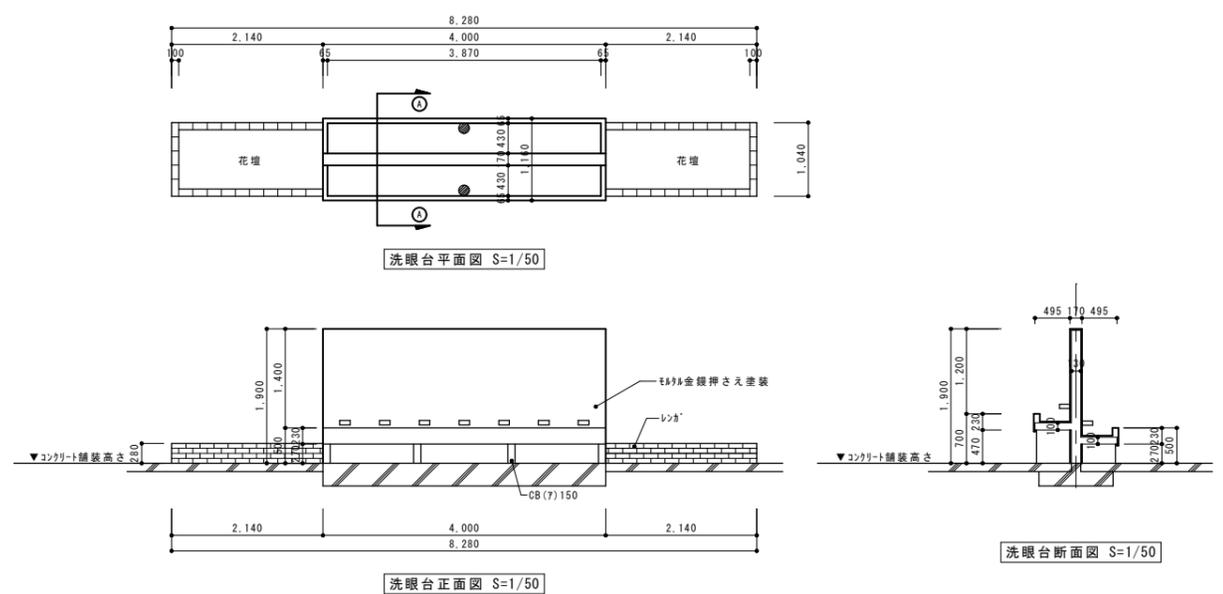
(I)棟 テント南側



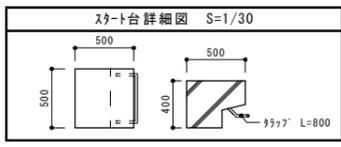
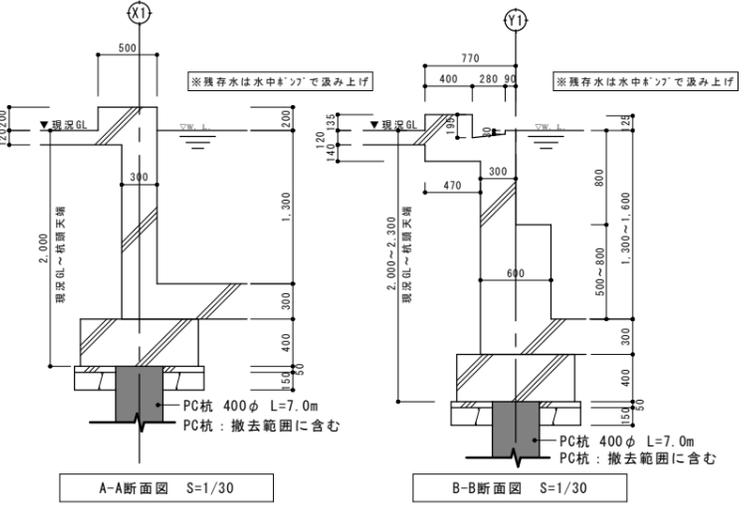
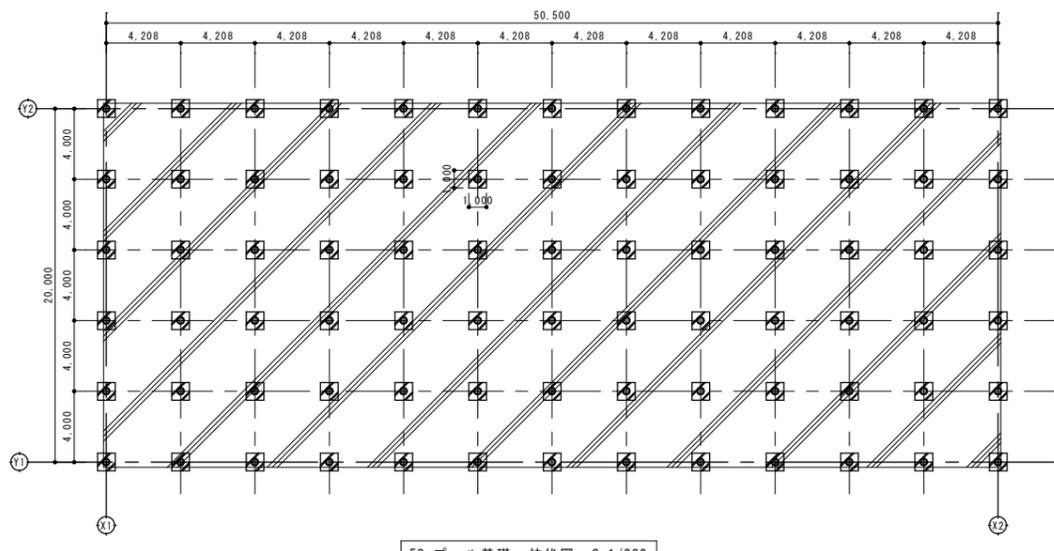
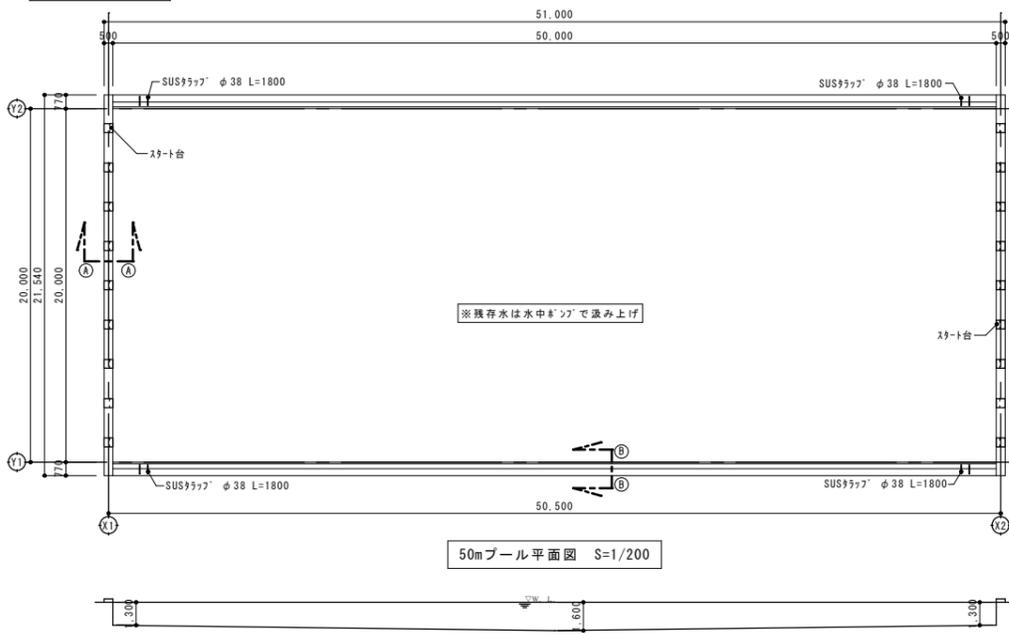
(J)棟 テント西側



(L)棟 洗眼台

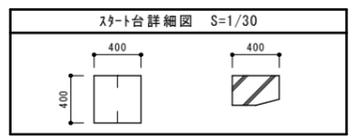
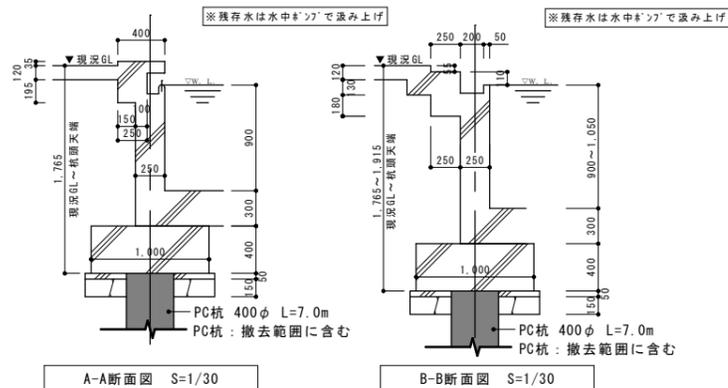
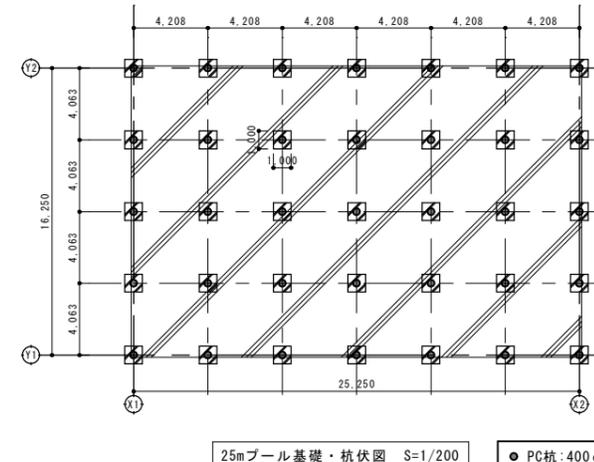
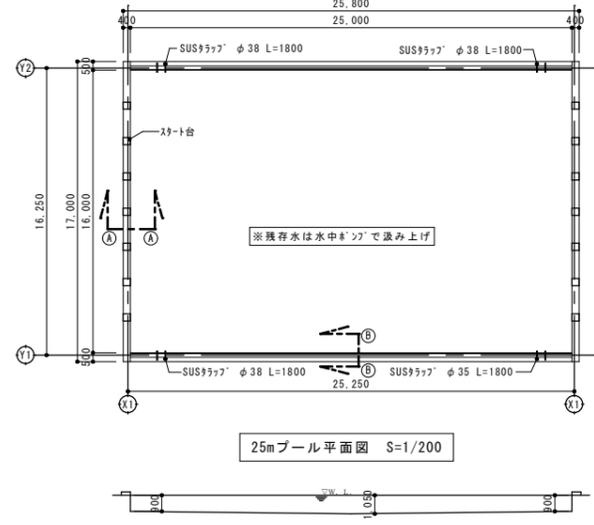


(M)棟 50mプール



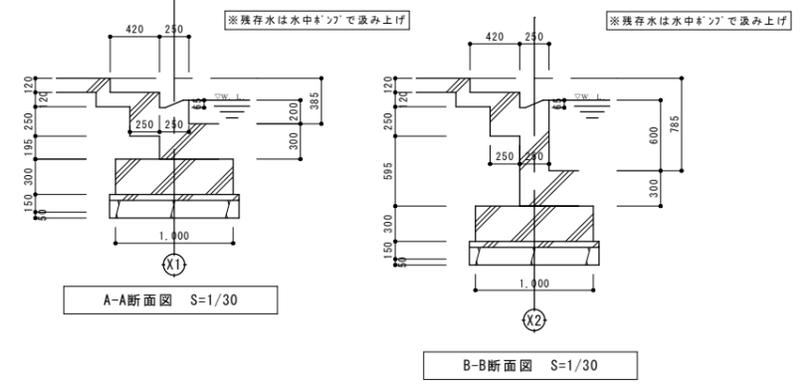
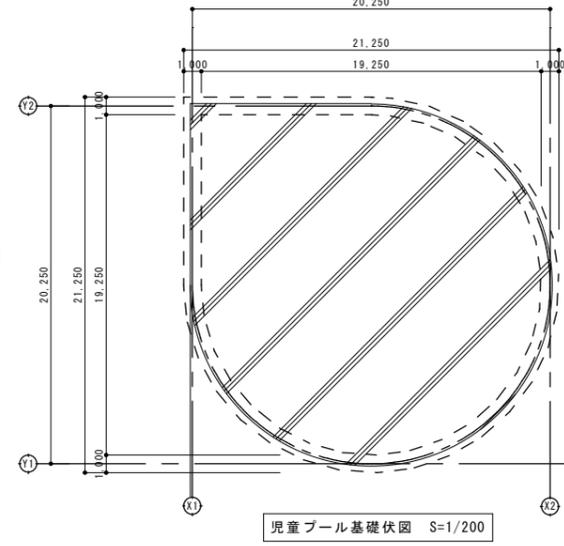
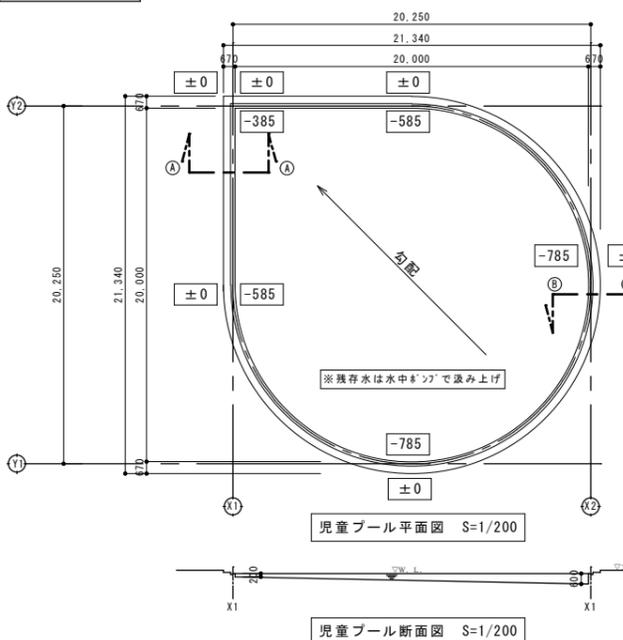
● PC杭: 400φ L=7.0m

(N)棟 25mプール

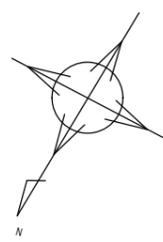
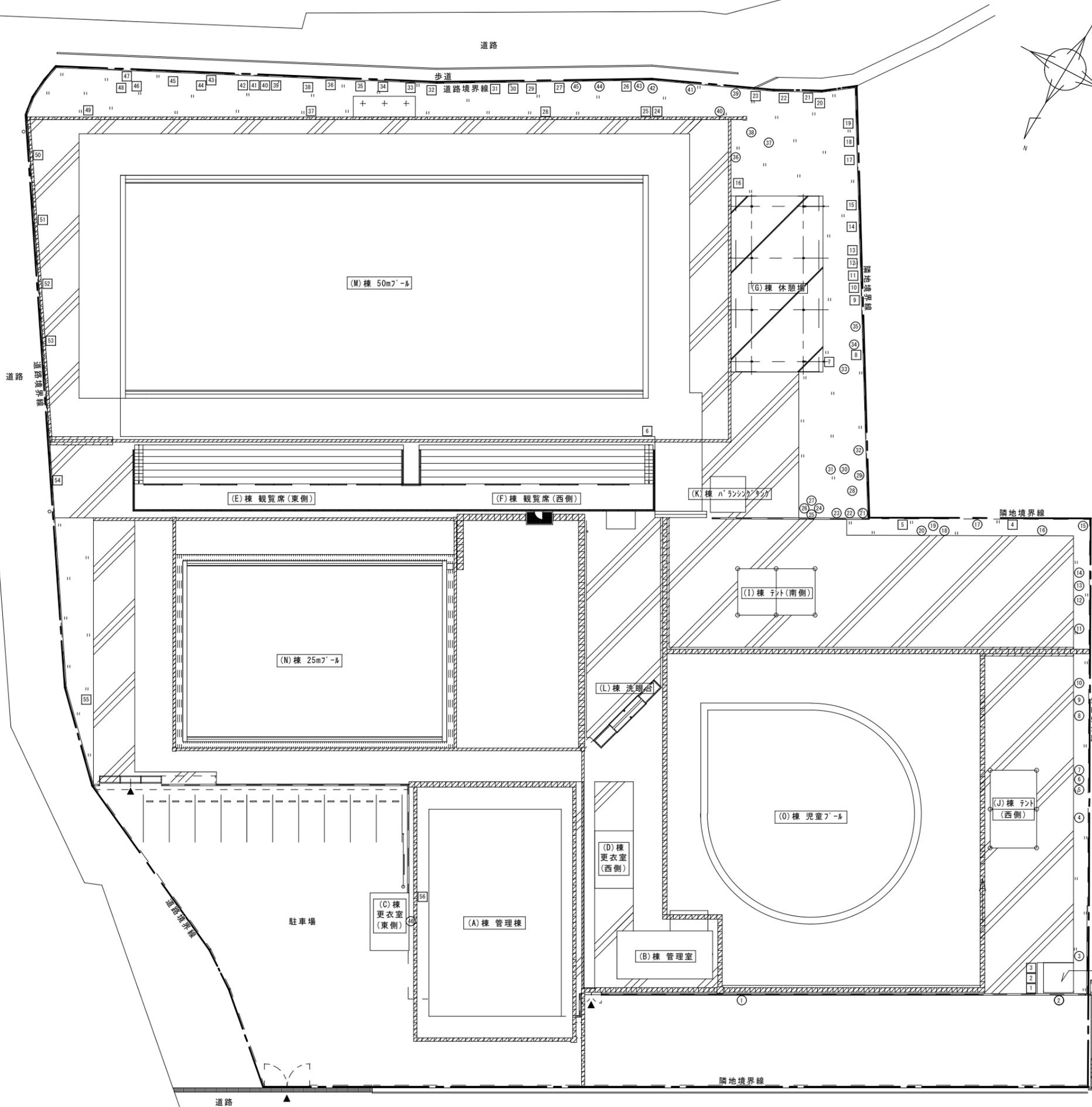


● PC杭: 400φ L=7.0m

(O)棟 児童プール



児童プール断面図 S=1/200



樹木撤去(伐採・伐根)リスト 単位:m

符号	樹高	幹回り	樹幅	本数
①	1.00	0.15	-	1本(3株)
②	2.00	0.30	-	1本
③	0.70	0.80	-	1本
④	1.00	玉物	1.70	1本
⑤	0.80	0.80	-	1本
⑥	1.00	0.60	-	1本
⑦	1.50	玉物	1.80	1本
⑧	1.00	0.40	-	1本
⑨	1.20	玉物	1.50	1本
⑩	1.20	玉物	2.00	1本
⑪	2.00	0.28	-	1本(2株)
⑫	2.00	0.35	-	1本(3株)
⑬	2.00	0.42	-	1本(3株)
⑭	1.50	玉物	1.80	1本
⑮	4.00	0.70	-	1本(5株)
⑯	4.00	0.20	-	1本
⑰	9.00	0.70	-	1本
⑱	8.00	0.35	-	1本
⑲	8.00	0.30	-	1本
⑳	5.00	0.20	-	1本
㉑	5.00	0.20	-	1本
㉒	6.00	0.45	-	1本
㉓	7.00	0.70	-	1本(2株)
㉔	7.00	0.70	-	1本(4株)
㉕	4.00	0.30	-	1本
㉖	6.00	0.84	-	1本(2株)
㉗	4.00	0.33	-	1本(4株)
㉘	4.00	0.20	-	1本
㉙	4.00	0.15	-	1本
㉚	5.00	0.35	-	1本
㉛	4.00	0.20	-	1本
㉜	6.00	0.35	-	1本
㉝	6.00	0.25	-	1本
㉞	6.00	0.25	-	1本
㉟	5.00	0.20	-	1本
㊱	5.00	0.35	-	1本(2株)
㊲	8.00	0.70	-	1本(2株)
㊳	6.00	0.25	-	1本
㊴	5.00	0.30	-	1本
㊵	6.00	0.50	-	1本
㊶	5.00	0.50	-	1本
㊷	3.50	0.35	-	1本
㊸	6.00	0.60	-	1本
㊹	3.50	0.35	-	1本(2株)
㊺	3.50	0.28	-	1本(2株)
㊻	2.00	0.07	-	1本

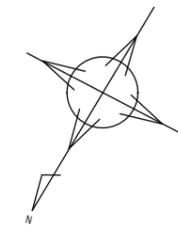
樹木撤去(伐根のみ) 単位:m

符号	樹高	幹回り	本数
①	0.20	0.40	1本
②	0.30	0.40	1本
③	0.20	0.30	1本
④	1.10	0.90	1本
⑤	0.90	0.42	1本(2株)
⑥	0.50	0.30	1本
⑦	0.30	0.70	1本
⑧	0.20	0.50	1本
⑨	0.30	0.30	1本
⑩	0.40	0.40	1本
⑪	0.30	0.40	1本
⑫	0.30	0.40	1本
⑬	0.30	0.20	1本
⑭	0.40	0.35	1本
⑮	0.30	0.50	1本
⑯	0.40	0.30	1本
⑰	0.30	0.50	1本
⑱	0.30	0.40	1本
⑲	0.30	0.40	1本
㉑	0.30	0.30	1本
㉒	0.40	0.30	1本
㉓	0.30	0.30	1本
㉔	0.30	0.30	1本
㉕	0.30	0.30	1本
㉖	0.30	0.30	1本
㉗	0.20	0.40	1本
㉘	0.30	0.40	1本
㉙	0.30	0.40	1本
㉚	0.30	0.40	1本
㉛	0.30	0.50	1本
㉜	0.30	0.30	1本
㉝	0.30	0.40	1本
㉞	0.30	0.30	1本
㉟	0.30	0.30	1本
㊱	0.30	0.50	1本
㊲	0.30	0.30	1本
㊳	0.30	0.30	1本
㊴	0.30	0.30	1本
㊵	0.30	0.40	1本
㊶	0.30	0.30	1本
㊷	0.30	0.30	1本
㊸	0.30	0.35	1本
㊹	0.10	0.30	1本
㊺	0.40	0.40	1本
㊻	0.50	0.25	1本
㊼	0.30	0.25	1本
㊽	0.30	0.30	1本
㊾	0.60	0.50	1本

樹木撤去図 S=1/200

CB(7)150 2段の上ネットスチールフェンス(A) (撤去)

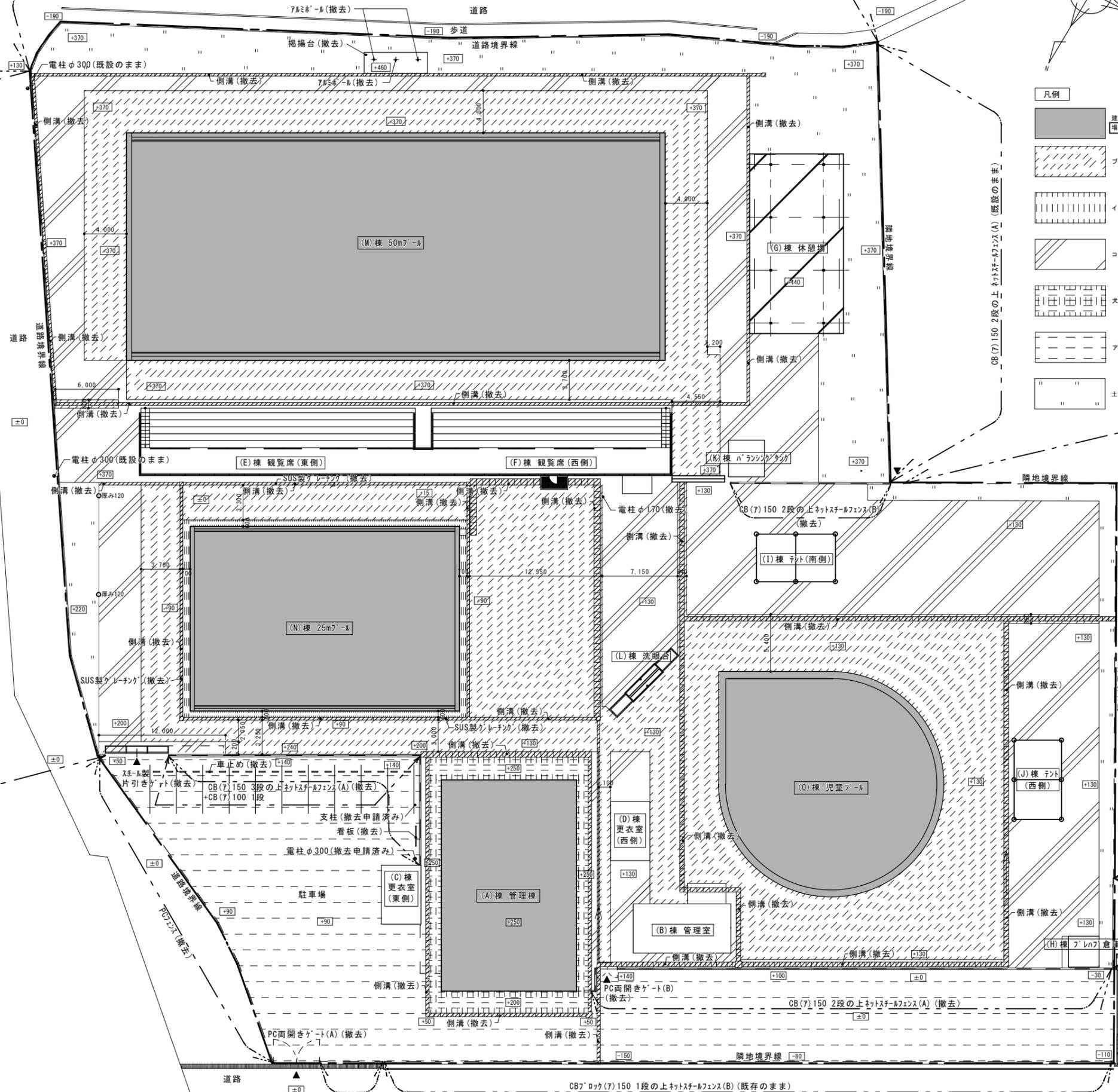
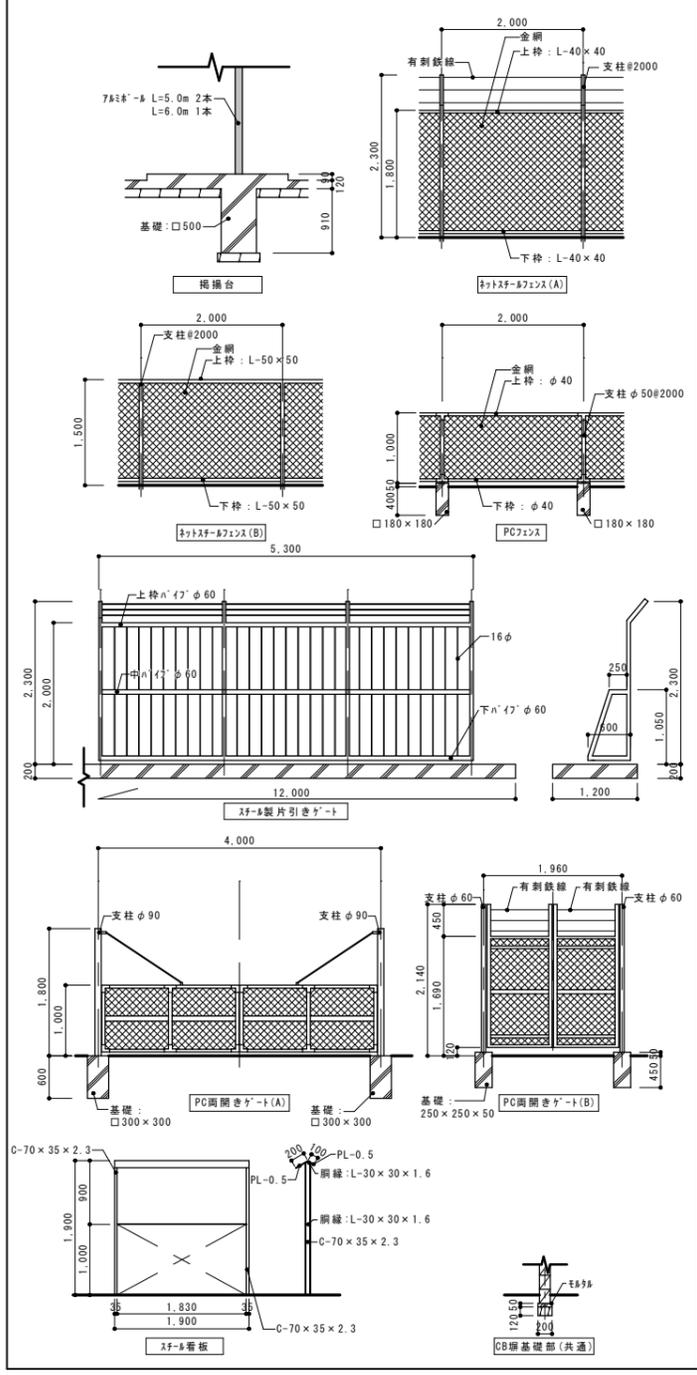
コンクリート擁壁(7)200 H350~750の上 ネットスチールフェンス(A) (フェンス撤去後擁壁天井板も別補修)



凡例

- 建物およびブル解体後
場内掘取り土・観覧所残土で埋め戻す。不足分は真砂土で埋め戻す。
- ブルーシート (コンクリート下地) 撤去
- イエローシート (コンクリート下地) 撤去
- コンクリート床 t=120 撤去
- 大走り 撤去
- アスファルト床 撤去
- 土

撤去工物物 S:1/50



外構撤去図 S=1/200

馬場建築設計事務所 TEL: 090-22-5550 FAX: 090-22-5519 東京都中央区新富町1-1-1 03-6262-1111	2020/10 行橋市民プール 解体工事 外構撤去図	SCALE S=1/50, 200 A1=100% A3=50% NO. A-13
--	----------------------------------	--

電気設備工事特記仕様書

I. 工事名称 行橋市民プール解体工事

II. 工事概要

1. 発注の有無 本工事は、以下の工事を含む。(詳細は、図面参照のこと)

- ・ 建築工事
- ・ 機械設備工事

2. 工事場所 福岡県行橋市南大橋二丁目8番1号

3. 建物概要

建物名称	構造	階数	延面積 (㎡)	防火対象物の種別	備考
(A)棟 管理棟	鉄骨	1	253.44		
(B)棟 管理室	ブロック	1	111.06		
(E・F)棟 観覧席	RC	1	318.14		
(G)棟 休憩場	鉄骨	1	75.00		

4. 工事種目 (○印を付けたものを適用する)

工事種目	建物別				
	管理棟	管理室	観覧席	休憩場	屋外
○電灯設備	撤去 一式	撤去 一式	撤去 一式	一式	
○動力設備	一式	一式	撤去 一式	一式	
・ 避雷設備	一式	一式	一式	一式	
・ 受変電設備	一式	一式	一式	一式	
・ 静止形電源設備	一式	一式	一式	一式	
・ 発電設備	一式	一式	一式	一式	
・ 構内情報通信設備	一式	一式	一式	一式	
・ 構内交換設備	一式	一式	一式	一式	
・ 情報表示設備	一式	一式	一式	一式	
・ 映像・音響設備	一式	一式	一式	一式	
○拡声設備	一式	一式	撤去 一式	撤去 一式	
・ 誘導支援設備	一式	一式	一式	一式	
・ 呼出し設備	一式	一式	一式	一式	
○テレビ共同受信設備	撤去 一式	一式	一式	一式	
・ 防犯設備	一式	一式	一式	一式	
・ 自動火災報知設備	一式	一式	一式	一式	
・ 中央監視制御設備	一式	一式	一式	一式	
・ 遠隔量水器設備	一式	一式	一式	一式	
・ デマンド監視・制御設備	一式	一式	一式	一式	
・ 太陽光発電設備	一式	一式	一式	一式	
・	一式	一式	一式	一式	
○構内配電線路	一式	一式	一式	一式	撤去 一式
・ 構内通信線路	一式	一式	一式	一式	撤去 一式
・	一式	一式	一式	一式	

III. 工事仕様

1. 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

- 「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生じる場合は、市担当者との協議すること。

2. 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

- 「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- 「建築工事標準詳細図(建築工事編 平成28年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- 「電気設備工事監理指針(令和元年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「機械設備工事監理指針(令和元年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築工事監理指針(令和元年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築改修工事監理指針(平成31年版)」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- 「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」 独立行政法人 建築研究所監修
- 「建築工事安全施工技術指針・同解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- 「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
- 「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」 環境省大気保全局(環境省アスベスト飛散防止対策研究会)

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更、又は工事価格の変更が生じる場合は、市担当者との協議すること。

3. 特記仕様

- 項目は、○印のついたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は、○印のついたものを適用する。

項目 特記事項

- 機材 この工事に使用する機材は、監督職員の承諾を受ける。
なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。
また、機材の選定に当たっては、グリーン購入法に適合したものを優先すること。
 - ・ 一般用電気工作物
 - ・ 事業用電気工作物
- 電気工作物
- 電気保安技術者
- 工事に必要な資格(建設業法に関するものを除く)
 - ・ 第1種電気工事士
 - ・ 第2種電気工事士(もしくは上位資格)
 - ・ 特種電気工事資格者(非常用予備発電装置)
 - ・ 工事担当者 第 種(もしくは上位資格)
 - ・ 消防設備士甲種 類
 - ・ あと施工アンカー第 種施工士(もしくは上位資格)
- 官公庁その他への手続き
- 工事用電力・水その他
- 残土処分
- 工事との取合い
- 再使用機器
- 耐震施工

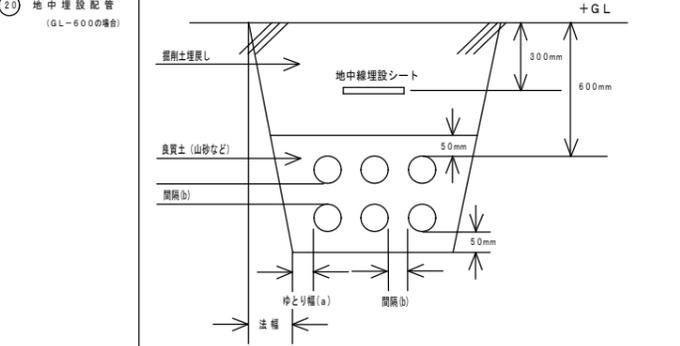
設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中間階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
地階及び1階	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

(1) 設計用標準震度 (Ks)
機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により以下表より求める。
機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により以下表より求める。

(2) 耐震安全性の分類 (・特定の施設 一般の施設)

(3) 地域係数 (Z) 地域係数 (Z) は、1.0とする。

- 合成樹脂製可とう電線管
- プレートの材質
- フロアプレート
- ハイテンション
- 露出配管等の塗装
- 呼び線
- 表示
- 地中埋設シート
- 地中埋設機
- 地中埋設配管 (GL-000の場合)



- ・ 根切り深さが1.5m未満の場合は直堀工法とし、1.5m以上の場合には法付工法とする。法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。
 - ・ 床幅は、埋設管類などの外径(底面)の寸法にゆとり幅×2を加えたものとする。
- ゆとり幅 (a) 及び埋設管相互の間隔 (b) は、下表を参照のこと。

ゆとり幅 (a)	根切り深さ 1m未満	根切り深さ 1以上1.5未満	根切り深さ 1.5以上	埋設管の呼び径	間隔 (b) (左右・上下)
地中電線管類	0.2m	0.4m	0.3m	50以下	50mm
地下埋設物	0.5m	0.5m	0.5m	150 #	70mm
				200 #	100mm

- 接地機
- 構内交換設備
- 電話機への配線
- 構内情報通信設備
- LANケーブルの色
- 機器と配線の接続
- インターロック
- ガス漏れ警報装置
- ガス漏れ警報装置
- 検知器
- 躯体貫通場所
- 発電機回路コンセント
- マンホール
- プルボックス

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地機
・ 共同	E _{A-C-D}	Ω以下	
・ 共同	E _{A-D}	Ω以下	
・ A種	E _A	10Ω以下	
・ B種	E _B	Ω以下	
・ C種	E _C	10Ω以下	
・ D種	E _D	100Ω以下	E _B () φ × 1 (L=1,500mm)
・ 避雷設備	E _L	10Ω以下	
・ 高圧避雷器	E _{LH}	10Ω以下	
・ 低圧避雷器	E _{LL}	10Ω以下	
・ 交換機用	E _L	10Ω以下	
・ 通信用	E _{AL}	10Ω以下	
・ 通信用	E _{CL}	100Ω以下	E _B (10) φ × 1 (L=1,500mm)
・ 測定用	E _{OL}		E _B (10) φ × 1 (L=1,500mm)

避雷設備の接地抵抗値は、総合抵抗とする。

本工事における構内交換設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

- ・ 構内交換装置
- ・ 電話機取付け (台)
- ・ 配管配線まで本工事
- ・ 配管のみ本工事
- ・ 配線のみ本工事

電話機1台につき次のものを見込む。

- ・ T1VF(T1VE) 0.65-2C m
- ・ EM-T1EF(T1EE) 0.65-2C m
- ・ EBT 0.4-2P m
- ・ EM-BT1EE 0.4-2P m
- ・ 2号ワイヤプロテクタ m

- 構内情報通信設備
- LANケーブルの色
- 機器と配線の接続
- インターロック
- ガス漏れ警報装置
- ガス漏れ警報装置
- 検知器
- 躯体貫通場所
- 発電機回路コンセント
- マンホール
- プルボックス

- 建築副産物の処理について

指定副産物(原則として、資源物化施設へ持込むもの)	その他の副産物
・ がれき類 (コンクリート等) (アスファルト・コンクリート等)	○ 廃プラスチック
・ 木くず	○ ガラス・陶磁器くず
・ 建設発生土	・ 廃石膏ボード
・ 汚泥	○ 金属くず
	・ 繊維くず

- 特別管理産業廃棄物

- 廃PCB等

- 廃蛍光灯および蛍光灯管は、水銀使用製品産業廃棄物として処理すること。

※ 参考受入場所は、現場説明書による。

建築副産物の処理内容

処理内容	備考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	
「建設副産物の処理計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

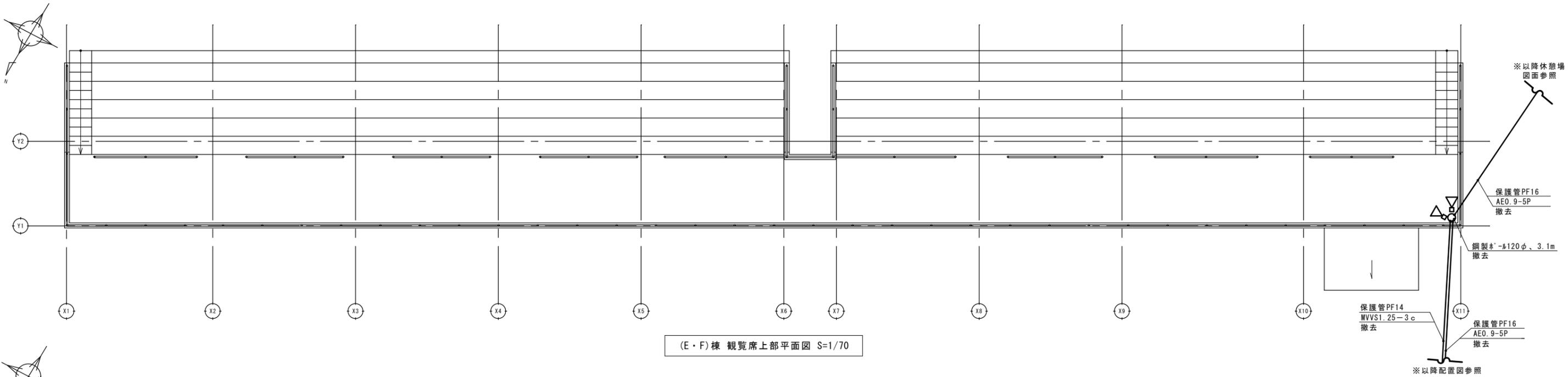
1. 廃蛍光灯または蛍光灯管は水銀使用製品産業廃棄物として処理を行うこと。
2. 電灯、動力引込線は、電力会社にて撤去す。
3. N T T (W) の引込線は残置されているので、撤去申請を行うこと。

- その他

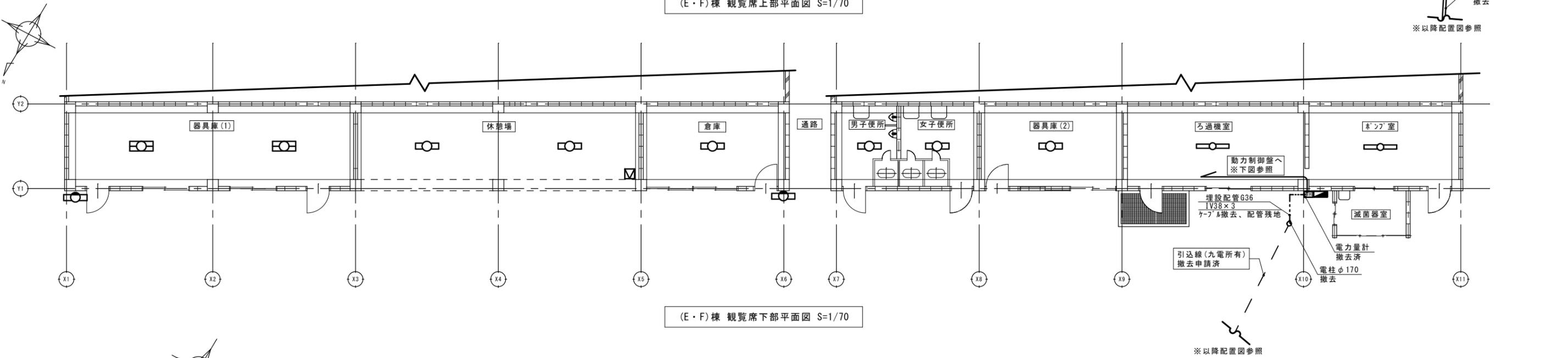
令和 2 年 10 月	
工事名称	行橋市民プール 解体工事
特記仕様書	
工事場所	福岡県行橋市南大橋二丁目8番1号
図番	E-01
設計者氏名	1級建築士登録第 1-60020 号 建築設計士 号
現場監督	号

撤去 機器表

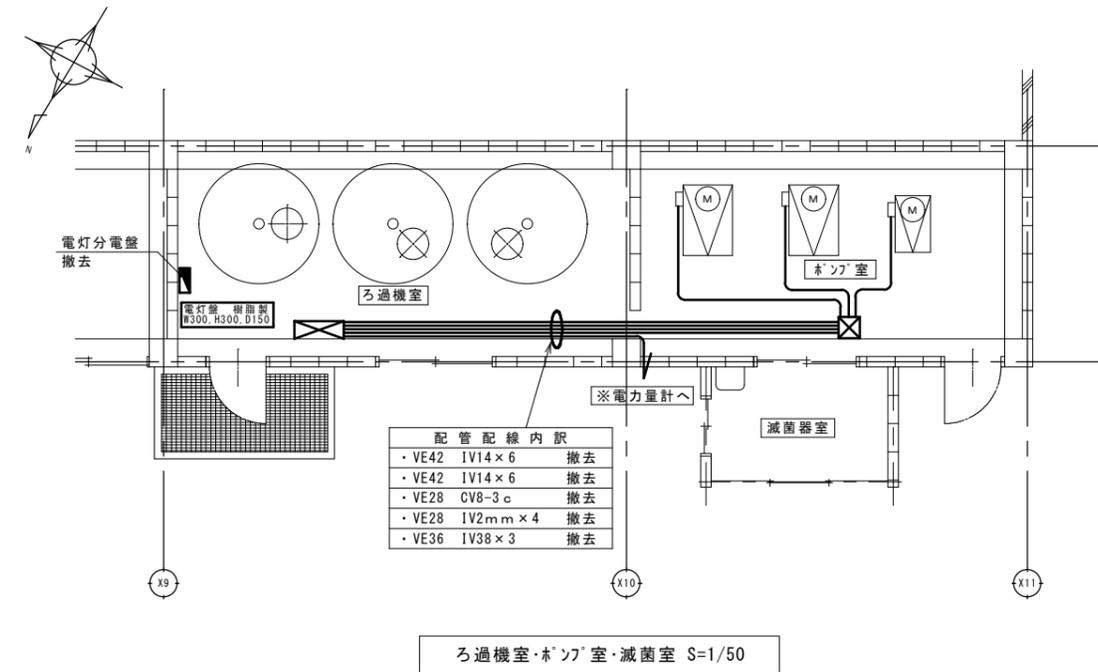
記号	名称	仕様・寸法	A棟 管理棟											B棟 管理室		E・F棟 観覧席								G棟 休憩場		屋外		合計					
			ホール	事務室	休憩室	前室1	前室2	ロッカー室	手洗場	シャワー場	足洗場	男子便所	女子便所	外部・屋上部	計	管理室	喫煙コーナー	計	器具庫(1)	休憩場	倉庫	男子便所	女子便所	器具庫(2)	ろ過機室	ポンプ室	外部・屋上部等		計	屋上	計	屋外	合計
	住宅用分電盤(樹脂製)	横:500、縦:300、深:120	1												1																		1
	電灯分電盤(樹脂製)	横:300、縦:300、深:150																					1	1			2					2	
	動力制御盤(主幹150A) (銅板製)	横:700、縦:1200、深:250																					1				1					1	
	プルボックス(銅板製)	300×300×200																						1			1					1	
	放送設備函(銅板製)	横:150、縦:250、深:150																								1	1					1	
	スピーカー	φ400																							2	2	2	2				4	
	UHFアンテナ 8素子	ポール φ19×3.7m													1	1																1	
	蛍光灯(壁付)	FL15W×1 ブラケットライト													3	3																3	
	蛍光灯(壁付)	FL20W×1 ブラケットライト													2										2	2						4	
	蛍光灯(埋込)	FL40W×2	4												4																	4	
	蛍光灯(直付)	FL40W×2		2											4	2	2															6	
	蛍光灯(直付)	FL40W×1			1	1	2	12	2	2	2				22								1	1		2						24	
	蛍光灯(直付)	FL20W×2															2									2						2	
	蛍光灯(直付)	FL20W×1																2	1	1	1	1				6						6	



(E・F)棟 観覧席上部平面図 S=1/70



(E・F)棟 観覧席下部平面図 S=1/70



ろ過機室・ホップ室・滅菌室 S=1/50

撤去凡例		
記号	名称	備考
	蛍光灯(壁付)	撤去 FL20W×1 プラケットライト
	蛍光灯(直付)	撤去 FL20W×2
	蛍光灯(直付)	撤去 FL20W×1
	蛍光灯(直付)	撤去 FL40W×1
	電灯分電盤(樹脂製)	撤去 横: 300、縦: 300、深: 150
	電力計	撤去済み
	動力制御盤(主幹150A)(銅板製)	撤去 横: 700、縦: 1200、深: 250
	プルボックス(銅板製)	撤去 300×300×200
	スピーカー	撤去 φ400 ホーン型 15W
	放送設備(銅板製)	撤去 横: 150、縦: 250、深: 150
	露出配管配線	撤去
	地中埋設配管配線	撤去 ケーブル、配管共残置
	引込線(九電所有)	撤去申請済み

注記)
 1. 図中、特記なき限り配管・配線・ケーブル・配線器具すべてを撤去すること。
 ただし、躯体打ち込みの配管・ボックスは除く。
 2. 照明器具、盤類は撤去すること。
 3. 引込線及び電力計は電力会社にて撤去済。

14	受水設備	※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。		
15	浄化設備	※浄化槽仕様書による。		
16	営繕 保温仕様	施工箇所	保温種別	区分
		屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー	給水 排水 給湯 ガス
		機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	
		天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 2.グラスウール 3.グラスウール化粧材	
		床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム	
		床下・暗渠内・コクリト内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.着色アルミガラスクロス	
		屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	
		屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.ステンレス鋼板	
		黒管塗装	1.錆止めペイント 2.錆止めペイント（2層）	
		白管塗装	1.エッチング 2.錆止めペイント 3.錆止めペイント（2層）	
管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	空調設備工事（冷暖水・管）	施工箇所	保温種別	区分
		屋内露出	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.合成樹脂製カバー	給水 排水 給湯 ガス
		屋内露出	1.ポリスチレンフォーム保温材 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム	
		屋内露出	1.断熱管の断熱材 2.保温化粧ケース	
		機械室・倉庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレンフィルム 4.アルミガラスクロス	
		天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス	
		天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.アルミガラスクロス	
		天井内・PS内・空隙壁中	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.アルミガラスクロス	
		床下・暗渠内・コクリト内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレンフィルム 4.着色アルミガラスクロス	
		床下・暗渠内・コクリト内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.着色アルミガラスクロス	
一般風道	区	区分	保温種別	区分
		矩形風道	1.鉄線 2.アルミガラスクロス化粧材 3.グラスウール 4.アルミガラスクロス	給水 排水 給湯 ガス
		円形風道（スパイラルダクト）	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス 3.着色樹脂板 4.アルミガラスクロス化粧テープ 5.ステンレス鋼板	
		矩形風道	1.鉄線 2.アルミガラスクロス化粧材 3.グラスウール 4.アルミガラスクロス	
		円形風道	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス 3.着色樹脂板 4.アルミガラスクロス化粧テープ 5.ステンレス鋼板	
		矩形風道	1.鉄線 2.アルミガラスクロス化粧材 3.グラスウール 4.アルミガラスクロス	
		円形風道	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス 3.着色樹脂板 4.アルミガラスクロス化粧テープ 5.ステンレス鋼板	
		矩形風道	1.鉄線 2.アルミガラスクロス化粧材 3.グラスウール 4.アルミガラスクロス	
		円形風道	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス 3.着色樹脂板 4.アルミガラスクロス化粧テープ 5.ステンレス鋼板	
		円形風道	1.アルミガラスクロス化粧材 2.アルミガラスクロス 3.着色樹脂板 4.アルミガラスクロス化粧テープ 5.ステンレス鋼板	
住宅保温仕様（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）	給排水衛生設備	施工箇所	保温種別	区分
		屋内露出（住宅内）黒管	1.錆止めペイント 2.錆止めペイント（2層）	給水 排水 給湯 ガス
		屋内露出（住宅内）白管	1.エッチング 2.錆止めペイント 3.錆止めペイント（2層）	
		屋内露出（住宅外）	1.エッチング 2.鉄線 3.鉄線 4.錆止め 5.錆止めペイント（2層）	
		機械室内	1.グラスウール 2.鉄線 3.鉄線 4.アルミガラスクロス	
		メーターボックス内黒管	1.錆止めペイント 2.錆止めペイント（2層）	
		メーターボックス内白管	1.エッチング 2.錆止めペイント 3.錆止めペイント（2層）	
		メーターボックス内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス	
		床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.着色アルミガラスクロス	
		床下・暗渠内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.着色アルミガラスクロス	
天井内・PS内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス			
スラブ上床板間転がし	1.保温チューブ			
スラブ上床板間転がし	1.ねじ止め			
洗面台内	1.エッチング 2.錆止めペイント 3.錆止めペイント（2層）			
屋外露出	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレンフィルム 4.ステンレス鋼板			
屋外露出黒管	1.錆止めペイント 2.錆止めペイント（2層）			
屋外露出白管	1.エッチング 2.錆止めペイント 3.錆止めペイント（2層）			
コンクリート内	1.0.4m幅鉄ビニールテープ1/2巻1回巻き			
水造壁内	1.保温チューブ			
土中埋設	1.ベアトタム系 2.ベアトタム系 3.ベアトタム系			
※ 硬質塩化ビニル管及び鉄管のコンクリート、地中埋設部は防食施工しない。 ※ サニタリーバンド及び通気管の屋内露出部分は塗装する。 ※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。 ※ コンクリート貫通部分には、防食処理を行う。 ※ 間仕切壁（PL板除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこ。 ※ 支持物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。 ※ さや管ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。				

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・がれき類（コンクリート塊） ・（アスファルト塊） ・木くず ・汚泥	○廃プラスチック ○ガラス、陶磁器くず ・廃石こうボード ○金属くず ・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気保全局）」に従い、収集、運搬、処分を行う。

・廃PCB等

「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※参考受入場所は現場説明書による

処理内容	備考
現場内における分別	
現場内分別保管場所の設置	
現場内分別保管場所までの運搬	
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。

業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力
委託確認書

業務用冷凍空調機器の有無の確認
確認結果を画面で説明
フロン回収証明書
引取証明書、業者登録書のコピー

工事請負業者

フロン類引渡
回収・運搬・破壊費用支払
委託確認書

引取証明書、業者登録書のコピー

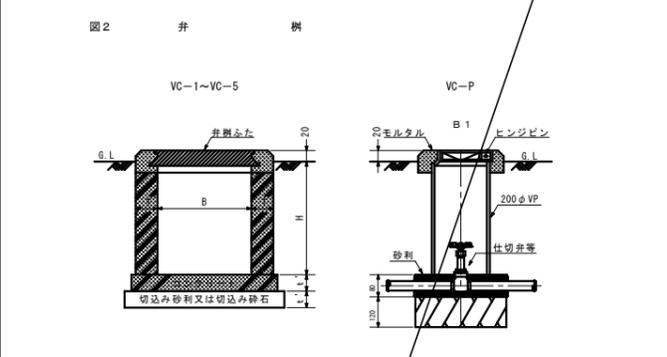
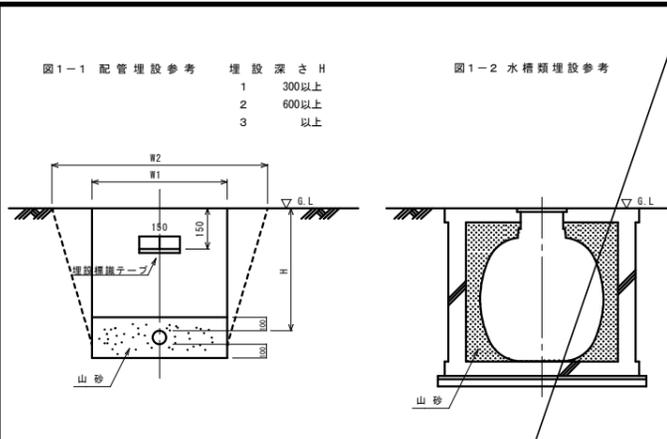
第1種フロン類充てん回収業者・・・フロン類回収・運搬

フロン類破壊・再生業者・・・フロン類破壊処理、一部再生利用

※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付のこと。

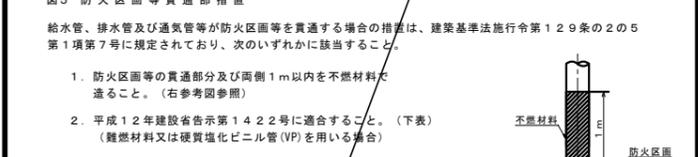
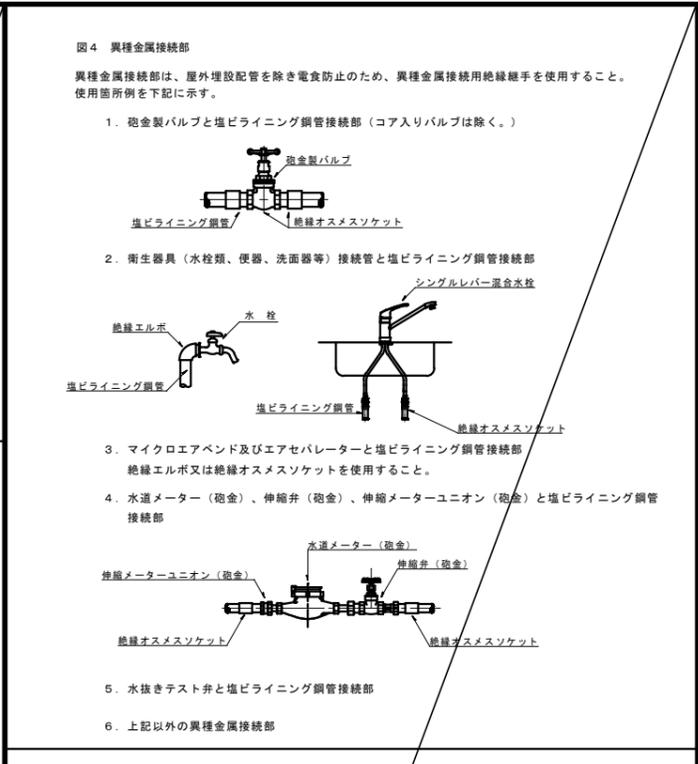
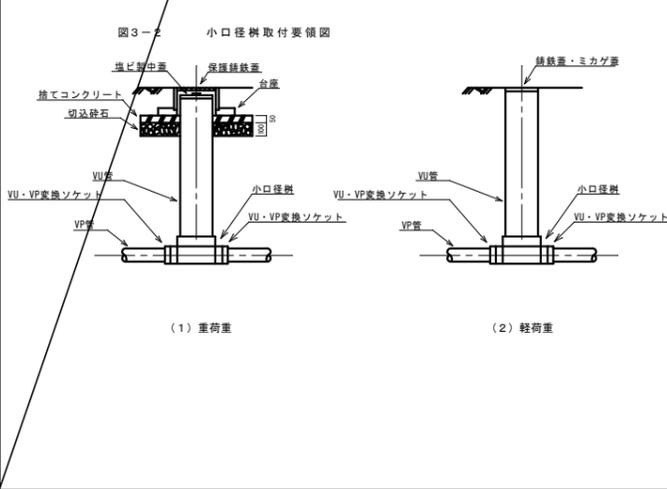
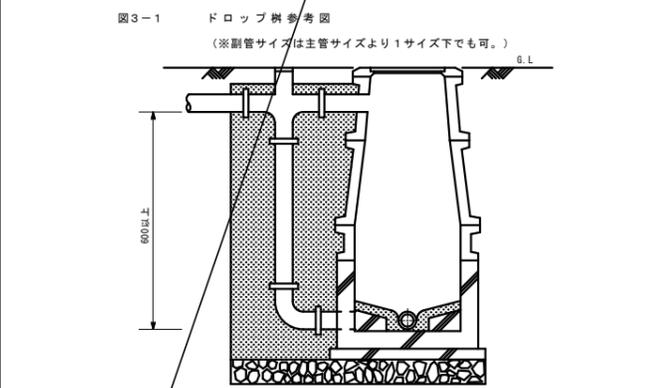
※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。

1. 水源	・雨水 ・雑用水処理水 ・井水
2. 配管材料	一般配管 ・塩化ビニル管（SGP-VA） ・塩化ビニル管（SGP-VB） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）（屋内） ・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮接続・溶接接続・拡管接続） ・ポリエチレン管（PE）（溶着接続・金属継手接続） 屋内地中配管 ・塩化ビニル管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 屋外地中配管 ・塩化ビニル管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ※ プチルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。 ・ポリエチレン管 1種（PE）（溶着接続・金属継手接続）
3. 接続の防止対策	配管等 屋内隠ぺい配管 1. 保温前の構材に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。 屋内・屋外露出配管 1. 保温前の構材に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。 地中埋設部 1. 埋設前の構材に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。 コンクリート内埋設部配管 1. 「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。 メーター 1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。 バルブ等 1. バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。
4. 試験	※ 若草色とは黄緑色をいう。 処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事に常備。 井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を黄色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。 接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。

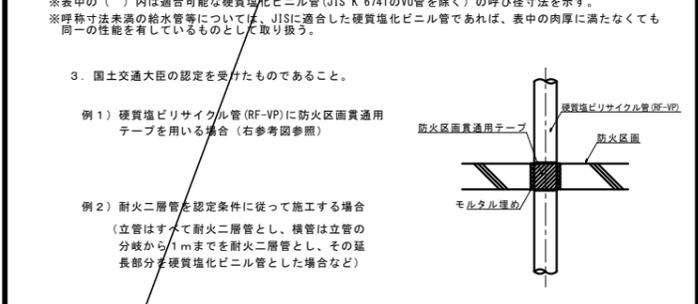


記号	井の呼び径	B	B	T	t'	t''	ふた
VC-P	25 以下	200φ	—	—	—	—	B 1
VC-1	—	—	550	75	75	75	B 1
VC-2	40 以下	180x180	850	100	100	100	B 1
VC-3	—	—	700	100	100	120	MHA-P300
VC-4	50~80	300x300	900	100	100	120	MHA-P300
VC-5	100~200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
注（ロ）コンクリート部には、必要に応じて鉄筋を入れる。
注（ハ）樹底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。



用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径			
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造	2時間耐火構造
給水管	無し	5.5mm以上	90mm (75)	—	—	—
		6.6mm以上	115mm (100)	—	—	—
排水管及び排水管に付属する通気管	無し	4.1mm以上	61mm (50)	—	—	—
		5.5mm以上	90mm (75)	—	—	—
厚さ0.5mm以上の鉄筋の覆い有り	無し	6.6mm以上	115mm (100)	90mm	61mm	—
		5.5mm以上	90mm (75)	—	—	—
厚さ0.5mm以上の鉄筋の覆い有り	無し	6.6mm以上	115mm (100)	90mm	61mm	—
		7.0mm以上	141mm (125)	115mm	90mm	—



※表中の（ ）内は適合可能な硬質塩化ビニル管（JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

3. 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1) 硬質塩化ビニル管（RF-VP）に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）

例2) 耐火二層管を認定条件に従って施工する場合（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分も硬質塩化ビニル管とした場合など）

ダクトの長辺	板厚	
	要鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	—

H31-4 令和2年10月日

工事名称 行橋市民プール解体工事 工事 特記仕様書(1)

工事場所 行橋市南橋大丁目8番 区 M 02号

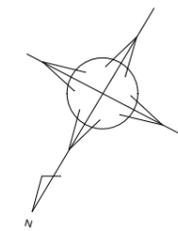
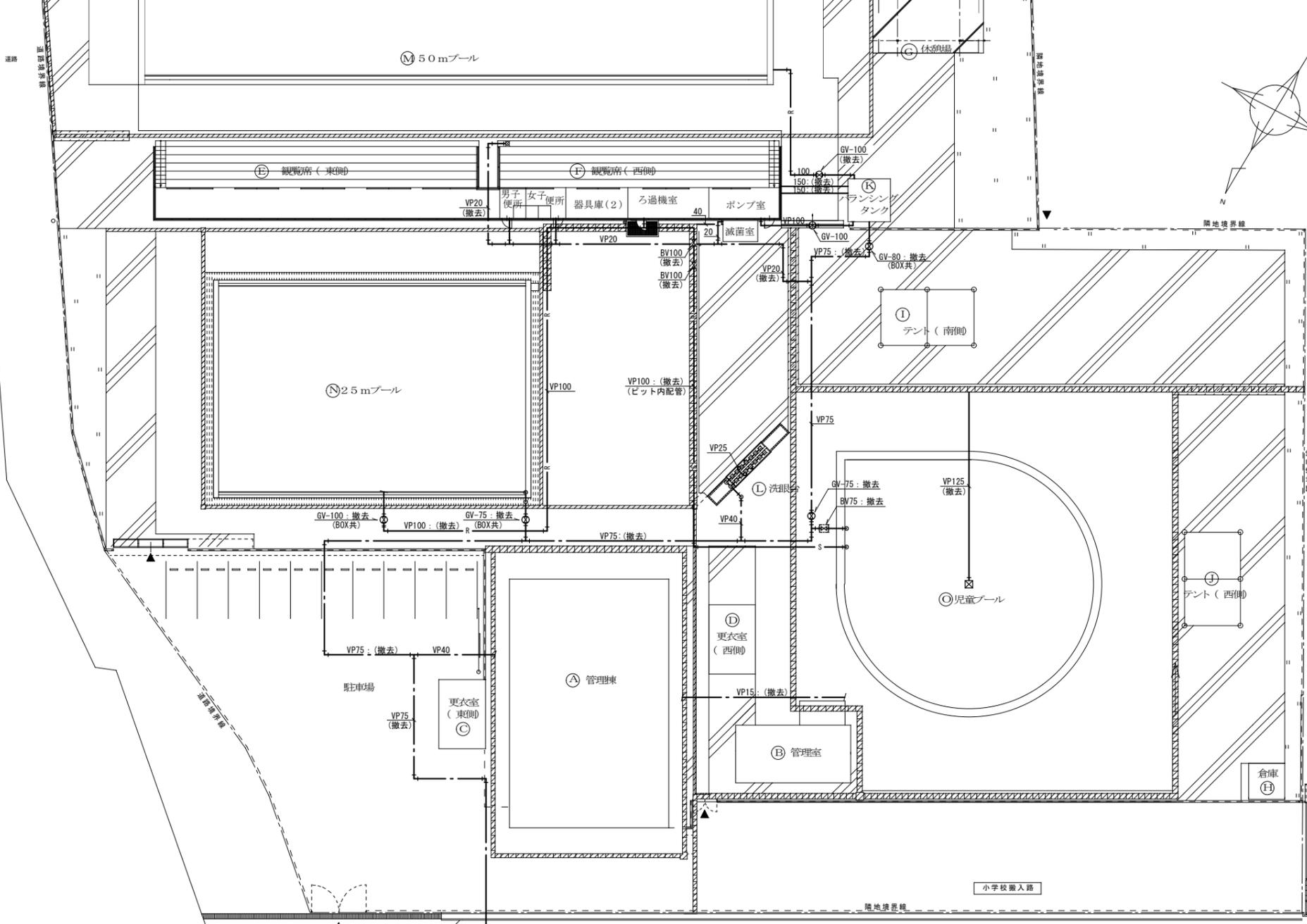
設計者 1級建築士登録第 333766 号 建築設備士 馬場 龍彦 印

事務所 馬場建築設計事務所 馬場 龍彦 印

及び所在地

機器表 (撤去)										
室名	記号	名称	型式	参考消費電力			台数	附属品及び備考		
				φ	V	KW				
ろ過機室	WF-1	プール循環ろ過機	銅板製、砂ろ過式	3	200		2	循環水量：75m ³ /h、缶体：φ1,700×1,500 ^{mm} (直網部) 手動3方弁共 ろ砂充填量：約 3.4m ³ PSS-517(1700)：ノシロ工業 参考重量：約890kg		
	WF-2	プール循環ろ過機	銅板製、砂ろ過式	3	200		1	循環水量：70m ³ /h、缶体：φ1,700×1,500 ^{mm} (直網部) 手動3方弁共 ろ砂充填量：約 3.4m ³ PSS-470：ノシロ工業 参考重量：約890kg		
ポンプ室	PWF-1	プール循環ポンプ	片吸込渦巻ポンプ	3	200	11.0	1	φ150 外形寸法：350 ^{mm} ×1,150 ^{mm} ×255 ^{mm} 、参考重量：210kg 150SE611：荏原製作所		
	PWF-2	プール循環ポンプ	片吸込渦巻ポンプ	3	200	5.5	1	φ100 外形寸法：370 ^{mm} ×860 ^{mm} ×410 ^{mm} 、参考重量：114kg FS-1006-M5.5：川本製作所		
	PD-1	排水用ポンプ	片吸込渦巻ポンプ	3	200	11.0	1	φ150 外形寸法：350 ^{mm} ×1,150 ^{mm} ×255 ^{mm} 、参考重量：210kg 150SE611：荏原製作所		
	PD-2	排水用ポンプ	排水用水中モーターポンプ	1	100	0.25	1	φ40 外形寸法：φ140×320 ^{mm} 、参考重量：6.0kg WUP3-406-0.25：川本製作所		
	HC-1	ヘアーキャッチャー	φ150				1			
	HC-2	ヘアーキャッチャー	φ100				1			
減菌室	CL	塩素減菌器					2	50L、φ500×700 ^{mm} (PVC製)		
管理棟事務室	ACR-1	ルームエアコン	壁掛型				1	CH4.5kW (家電リサイクル) CS-J45KH7：ナショナル		
管理室	ACR-2	ルームエアコン	壁掛型				1	CH3.2kW (家電リサイクル) MSY-3263：三菱電機		
管理棟男子便所	FE-1	換気扇	φ300				1			
管理室喫煙室	FE-2	換気扇	φ200				1			
ポンプ室	FE-3	換気扇	φ200				1			

衛生器具表 (撤去)													
品名	品番	附属品及び備考	管理棟			管理室		観覧席			減菌器室	洗眼台	
			シャワー室	女子便所	男子便所	シャワー室	前室	小計	管理室	男子便所			女子便所
簡易水洗和風大便器		タンク 共		6									
排水洗和風大便器									1	2		3	
ストール小便器	U308 (FV共)				4		4						
排水洗小便器									2			2	
手洗器	L5 同等品												
シャワー金具	13A	止水栓 共	5			5	10						
横水栓	13A		4	2			6	1			1	1	
洗眼水栓	13A												1
化粧鏡	350×450		2				2						
化粧鏡	600×1,200						1	1					
化粧棚	S3		3				3		1	2		3	
仕切板	A100AT 同等品				3		3		1			1	
洗面器	L220 同等品								1	2		3	1

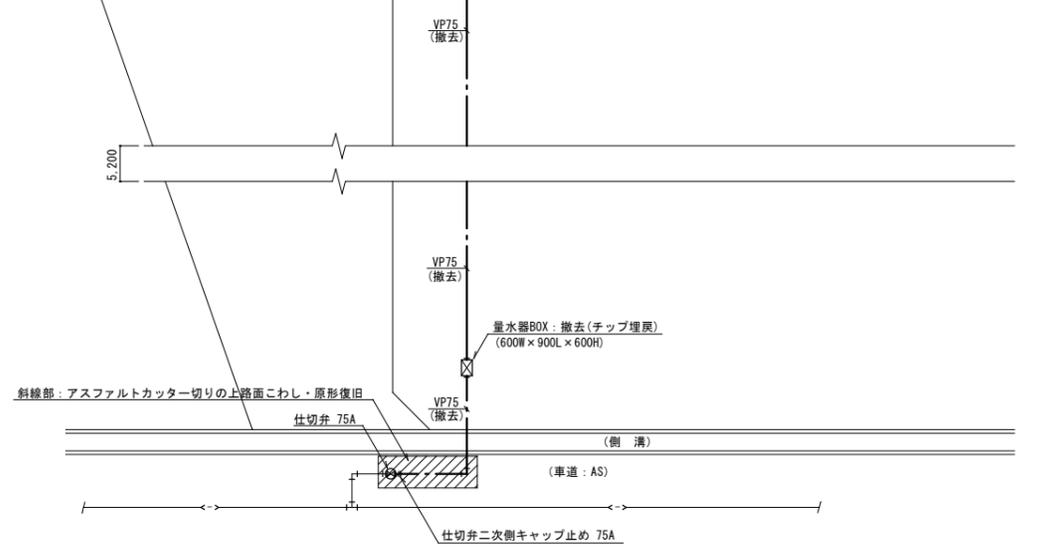


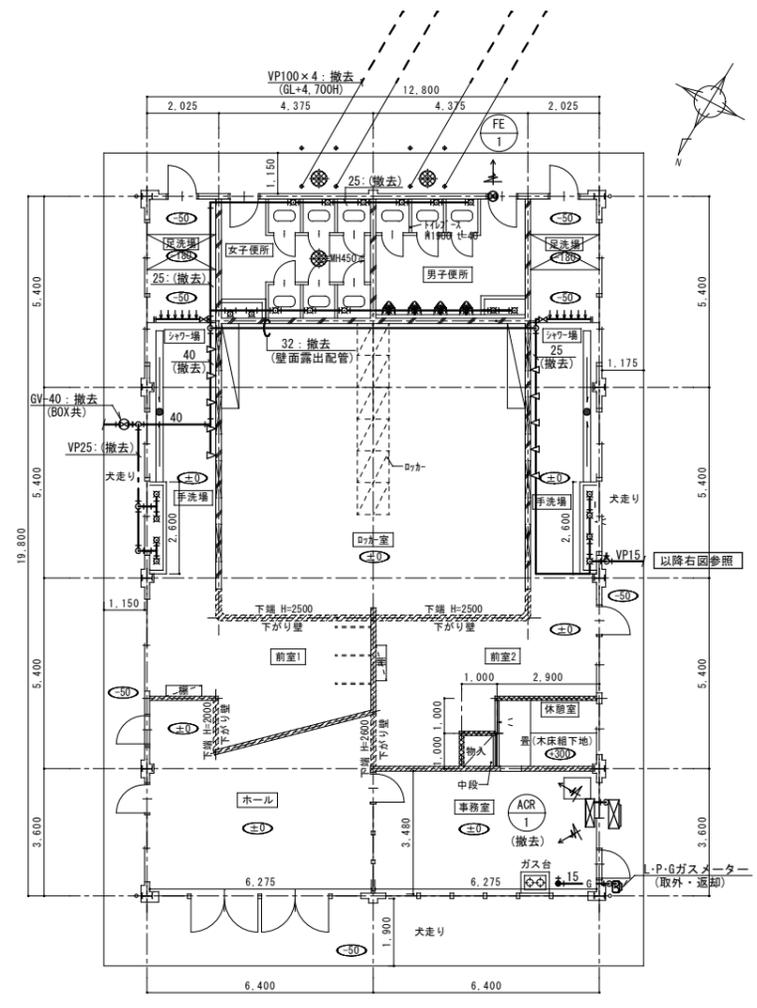
施設名称	行橋市民プール
施設場所	行橋市南大橋二丁目8番
施設用途	屋外プール

建物概要

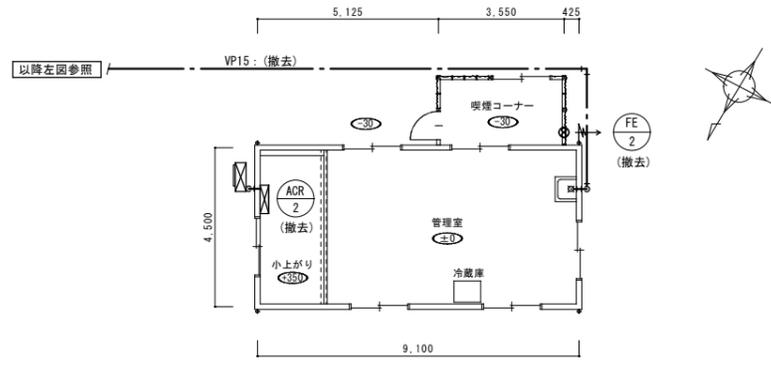
(A) 棟 管理棟	鉄骨造平屋建て
(B) 棟 管理室	CB7 ロック造平屋建て
(C) 棟 更衣室(東側)	CB7 ロック造平屋建て
(D) 棟 更衣室(西側)	CB7 ロック造平屋建て
(E・F) 棟 観覧席	RC造平屋建て
(G) 棟 休憩場	鉄骨造平屋建て
(H) 棟 プレハブ倉庫	鉄骨造平屋建て
(I) 棟 テント(南側)	鉄骨造平屋建て
(J) 棟 テント(西側)	鉄骨造平屋建て
(K) 棟 バランシングタンク	鉄筋コンクリート造
(L) 棟 洗眼台	鉄筋コンクリート造
(M) 棟 50mプール	鉄筋コンクリート造
(N) 棟 25mプール	鉄筋コンクリート造
(O) 棟 児童プール	鉄筋コンクリート造

配置図 S=1/200

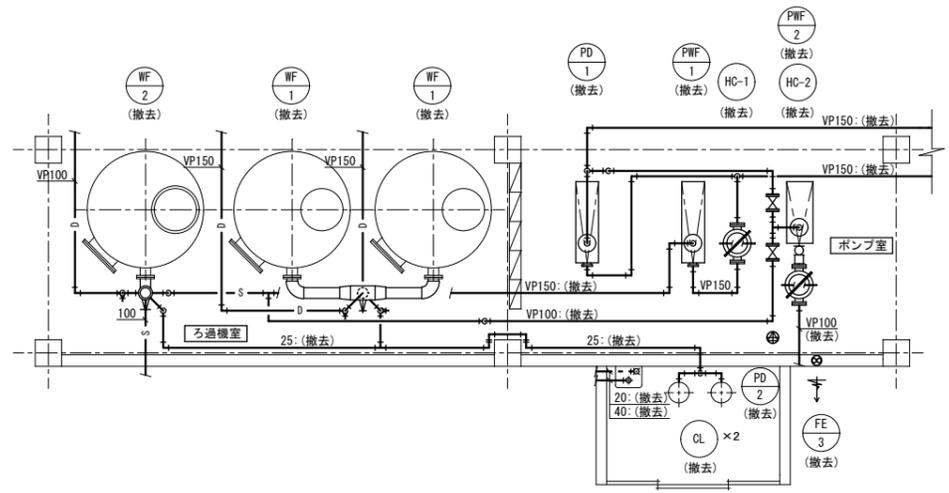




管理棟平面図 S = 1 : 100



管理室平面図 S = 1 : 100



ろ過機室・ポンプ室平面図 S = 1 : 20



①

(A)棟 管理棟 北側

②

(A)棟 管理棟 北側

③

(A)棟 管理棟 東側

④

(A)棟 管理棟 南側

⑤

(A)棟 管理棟 西側

⑥

(A)棟 管理棟 事務室

⑦

(A)棟 管理棟 前室1・前室2

⑧

(A)棟 管理棟 ロッカー室

⑨

(A)棟 管理棟 手洗場

⑩

(B)棟 管理室 南側

⑪

(B)棟 管理室 北側

⑫

(B)棟 管理室 内観

■■■■■■■■■■ 一級建築士事務所 馬場建築設計事務所 <small>Baba Architect Design Studio</small> 福岡県行橋市西宮市1丁目4-5・101 TEL:0930-22-5550 FAX:0930-22-5519 一級建築士事務所 登録 第1-60020号 一級建築士 登録番号 第333766号 馬場 龍彦	制作 WORK 2020/10	工事名称 TITLE 行橋市民プール 解体工事	SCALE NOSCALE
	DRAWN	D. TITLE 現況写真①	NO. ①

⑬ (C)棟 更衣室 (東側)



⑭ (D)棟 更衣室 (西側)



⑮ (D)棟 更衣室 (西側)



⑯ (E・F)棟 観覧席 北側



⑰ (E・F)棟 観覧席 南側



⑱ (E・F)棟 観覧席 東側



⑲ (E・F)棟 観覧席 休憩場



⑳ (E・F)棟 観覧席 上部



㉑ (E・F)棟 観覧席 ろ過機室



㉒ (E・F)棟 観覧席 器具庫(1)



㉓ (G)棟 休憩場



㉔ (H)棟 プレハブ倉庫



<p>■■■■■■■■■■ 一級建築士事務所 馬場建築設計事務所 Baba Architect Design Studio 福岡県行橋市西宮市1丁目4-5・101 TEL:0930-22-5550 FAX:0930-22-5519 一級建築士事務所 登録 第1-60020号 一級建築士 登録番号 第333766号 馬場 龍彦</p>	制作 WORK	工事名称 TITLE	SCALE
	2020/10	行橋市民プール 解体工事	NOSCALE
	DRAWN	D. TITLE	NO.
		現況写真②	②



<p>■■■■■■■■ 一級建築士事務所 馬場建築設計事務所 <small>Baba Architect Design Studio</small> 福岡県行橋市西宮市1丁目4-5・101 TEL:0930-22-5550 FAX:0930-22-5519 一級建築士事務所 登録 第1-60020号 一級建築士 登録番号 第333766号 馬場 龍彦</p>	<p>制作 WORK 2020/10</p>	<p>工事名称 TITLE 行橋市民プール 解体工事</p>	<p>SCALE NOSCALE</p>
	<p>DRAWN</p>	<p>D.TITLE 現況写真③</p>	<p>NO. ③</p>



⑬ (E・F)棟 観覧席 器具庫(1)

⑭ (E・F)棟 観覧席 器具庫(1)

⑮ (E・F)棟 観覧席 器具庫(1)

⑯ (E・F)棟 観覧席 器具庫(1)

⑰ (E・F)棟 観覧席 休憩場

⑱ (E・F)棟 観覧席 休憩場

⑲ (E・F)棟 観覧席 倉庫

⑳ (E・F)棟 観覧席 男子便所

㉑ (E・F)棟 観覧席 女子便所

㉒ (E・F)棟 観覧席 器具庫(2)

㉓ (H)棟 プレハブ倉庫

㉔ (H)棟 プレハブ倉庫

■■■■■■■■■■ 一級建築士事務所 馬場建築設計事務所 Baba Architect Design Studio 福岡県行橋市西宮市1丁目4-5・101 TEL:0930-22-5550 FAX:0930-22-5519 一級建築士事務所 登録 第1-60020号 一級建築士 登録番号 第333766号 馬場 龍彦	制作 WORK 2020/10	工事名称 TITLE 行橋市民プール 解体工事	SCALE NOSCALE
	DRAWN	D.TITLE 現況写真(残存備品)②	NO. ⑤

行橋市民プール解体工事

〈現場説明書〉

1. 安全管理について

- ・ 工事車輛等の搬入出は、地域住民等の安全を考慮して適宜交通誘導員等を配置して行うこと。
- ・ 工事車輛等の搬入出は、周辺の学校の登下校時間帯を考慮して行うこと。
- ・ 仮囲い設置等は、状況に応じて、監督員等と協議して設置すること。
- ・ 施工中の騒音、振動、粉塵、異臭等は極力抑えるように努めること。

2. 工程管理について

- ・ 監督員と協議し、遅延無く工事を完了させること。
- ・ プール槽内の解体前の清掃は、別途業務委託を行う為請負業者と工程等十分協議を行い円滑に業務を行うこと。

3. その他

- ・ 杭は、他のプールを参考に算出しているため、現地と異なる場合速やかに監督員に報告を行い、対応を協議すること。
- ・ 施工に当り現場付近の道路、樹木、工作物等に損傷を与えた場合は、請負者の負担によって早急に復旧しなければならない。
- ・ 場内及び場外の整理整頓、清掃を常に行うこと。
- ・ 近隣住民等から苦情等があった場合は、直ちに監督員に報告し対応を協議すること。
- ・ 駐車場について、施設敷地内の駐車場所は限りがあるので、できるかぎり乗り合わせで来場すること。
- ・ 施工計画書・材料承認等の必要書類は、早急に提出し承認を得てから施工を行う事。
- ・ 施工体制台帳は、契約後、速やかに提出すること。

暴力団排除条項に該当するものを下請負人とした場合には、元請負人に対して下請負契約に解除を求めることができる。